

平成21年度

事業
報告



ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2009



はじめに

「共に生きる豊かな福祉社会」のために

2009年度は、朝日新聞厚生文化事業団の活動史に新しい第一歩を記す1年となりました。私たちの社会福祉事業の重点を「子ども」「障害者」「高齢者」の3部門に置く基本方針を前年に策定、その実施初年度となったからです。

例年以上に力を注いだのが高齢者の福祉でした。中軸の催しとして東京と大阪で開いたのが「高齢者フォーラム」です。老いをむやみに悲観せず自分らしく生きる新しい概念「ウイズ・エイジング」に基づき、認知症を主題に実施し、好評を得ました。高齢者の福祉施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」も首都圏でスタートし、10年度からの全国展開につなげます。

高次脳機能障害への理解の広がりをめざし、大規模な講演会を東京と大阪で開いたのも特色です。また、事業団創立80周年記念事業で08年に始めた子どもへの暴力防止プロジェクト助成と児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金は2年目を展開。さらに、精力的にかかわってきた自閉症支援のTEACCH（ティーチ）プログラムは、わが国への本格導入から20年の節目でした。

大災害の被災者救援にも引き続き取り組み、被害が甚大だったサモア・スマトラとハイチの地震で募金を呼びかけました。

08年9月のリーマン・ショックに端を発した景気低迷は深刻で、朝日チャリティー美術展などにも多大な影響を与えました。依然として格差の増大には歯止めがかからず、行き詰まり感は和らぐことがないままです。しかし、そんな世相だからこそ、社会的な弱者に対する支援活動の必要性と期待を強く感じます。事業団が掲げてきた「共に生きる豊かな福祉社会」の実現に向け、時代の要請に応えた事業推進の意義を痛感しております。

ご寄付をはじめ、多くの皆様から頂戴したご支援、ご協力に厚く感謝を申し上げ、さらなるお力添えを願いつつ、2009年度の事業結果を報告させていただきます。

2010年5月

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

目

次

はじめに.....	1
子どもの福祉.....	5
子どもへの暴力防止プロジェクト助成	5
子どもへの暴力防止フォーラム（東京）	8
児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金	8
朝日夏季保育大学（長野）	9
第3回 演劇ワークショップ「Remix」（東京、横浜）	10
第26回福祉施設絵画展（名古屋）	11
キャンプ事業（名古屋）	11
障害者の福祉.....	12
自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）	12
自閉症を正しく理解すること～自閉症の支援で最も大切なこと～（札幌、豊見城）	13
自立課題の作り方講座（和歌山、下関）	15
ジョブコーチ・ネットワーク/JC-NET（米子、東京）	16
第26回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）	17
第28回名古屋市手話通訳問題研修会（名古屋）	18
高次脳機能障害を理解する講演会（東京、大阪）	18
高次脳機能障害支援セミナー（名古屋）	19
精神障害者ホームヘルプガイドブック	20
なっちゃんの闘うつ記～みんなで「うつ」を考えよう～（大阪）	21
視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」（東京）	21
「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」（東京）	22
第28回肢体不自由児・者の美術展（東京）	22
第38回聴美会展（名古屋）	23
第44回名古屋市障害者作品展示会	23
第47回心身障害問題を考える集い（名古屋）	23
第30回障害者歩くスキーの集い（札幌）	24
第30回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（北九州）	24
第21回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（熊本）	25

高齢者の福祉	26
高齢者フォーラム「ウイズ・エイジング～認知症になっても自分らしく生きたい」(東京、大阪)	26
高齢者訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(千葉、宇都宮、横浜、川崎)	27
朝日高齢者福祉セミナー(名古屋)	29
朝日福祉ふれあいサロン「親の介護・自分の老後」(大阪)	29
第9回「懐かしの童謡・唱歌を歌いましょう」(大阪)	30
福祉教育・福祉啓発推進	31
第5回自殺防止事業「自殺!? ちょっと待って!」一思いとどまってもらうために(福岡)	31
対人サービス援助者のスキルアップ講座(大阪)	32
講演会「育みはぐくまれ」(大阪)	33
遺贈・遺言セミナー「老いじたく～あなたの財産を未来に」(東京)	33
医療と公衆衛生	34
第61回保健文化賞(東京)	34
小児がん街頭キャンペーン(名古屋)	34
アサヒベビー相談室(大阪、高槻、大津)	34
生活習慣病市民公開講座(北九州)	35
チャリティー事業	36
朝日チャリティー美術展(名古屋、大阪、東京)	36
第59回メサイア演奏会(東京)	37
親子で楽しむクリスマスコンサート(東京)	38
第55回朝日推薦演奏会(大阪)	39
第51回各派合同三曲演奏会(大阪)	39
第57回洋舞合同祭(尼崎)	40
協賛能(大阪)	40
第56回各流合同茶会(大阪)	41
第55回歳末朝日チャリティー茶会(名古屋)	41
第47回チャリティー大茶会(北九州)	42
杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会(東京)	42
第46回宇井あきらとレ・ザマン・ド・ラ・シャンソンコンサート(東京)	42
彩季会チャリティーバザー(東京)	43
各地のウォーキング大会で募金活動(小金井、飯能、堺、東松山)	43
その他の事業	44
西部朝日福祉助成金(九州、沖縄、山口)	44
サモア・スマトラ沖地震救援募金、ハイチ地震救援募金	45

主な後援・協賛・協力事業一覧表.....	46
チャリティー美術展に出展いただいた皆様.....	53
ご寄付をいただいた皆様.....	64
朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオのご案内.....	72
朝日福祉ガイドDVDシリーズ「親と教師のための 自閉症の子どもの評価」全4巻 頒布中	74
里親家庭で生活する「子どもの権利ノート」のご案内.....	75
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ.....	76
2009年度収支計算書.....	78
理事・監事・評議員名簿.....	79
お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿.....	80

子 ども の 福 祉

80周年記念事業 子どもへの暴力防止プロジェクト助成

総額1億5000万円・2年目は全国の21団体に約4500万円を贈呈

朝日新聞社と共同主催。厚生労働省、テレビ朝日福祉文化事業団後援

1928年（昭和3年）に創立した当事業団の80周年記念事業として、2008年度から創設した「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」の2年目は、全国の21団体に計約4500万円を贈呈しました。

この事業は、次代を担う子どもたちが暴力や虐待の被害に遭わず、安心して暮らせる社会を築くことを目指すものです。暴力（虐待）の防止や予防の啓発事業、暴力を受けた経験のある子どもたちへのケアなどを担う、地域の小さなグループから全国的に活動する団体までを対象に、取り組もうとするプロジェクト（事業）を支援するために助成します。

地域で活動するグループや団体に光が当たり、一人でも多くの人々が、子どもへの暴力（虐待）防止に関心を持ち、新たな活動が生まれることを助けることが狙いです。

前年度も含めた助成予定総額が1億5千万円という規模に加え、①1団体当たりの助成額に原則として制限を設けない②年度を越える事業も認める③プロジェクトに要する人件費を助成額の30%まで認める——など、これまでの他の助成事業にはなかった特色を盛り込みました。

対象のテーマを「子どもへの暴力防止」にしぼったことも合わせて、2009年度も関係各方面から注目を集めました。

募集を5月9日に開始し、7月2日の締め切り時には全国から168件の申し込みがありました。実地調査も含めて当事業団内に設けた選考委員会による3次の選考の末、20件（21団体・グループ）、総額4545万円の贈呈を決定しました。

厚生労働省が定めた「児童虐待防止推進月間」の11月に合わせて朝日新聞などで贈呈団体を発表し、東日本と西日本の10件ずつに分かれて11月13日、朝日新聞の東京、大阪各本社で贈呈式を行いました＝写真。



2カ年計画のこの「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」の総額は、昨年度分と合わせて約1億500万円となりました。当初の予定総額の1億5000万円との差額4500万円をもって、2010年度も計画を延長して実施する予定です。



贈呈式に集まった東日本の11団体の代表（左）と西日本の10団体の代表（右）

朝日新聞厚生文化事業団 「子どもへの暴力防止プロジェクト」21団体に助成

あじ明志組
島々の自然で心を開く

来年度も募集します
朝日新聞厚生文化事業団は、10月1日、朝日新聞東京、大阪本社に贈呈式を行いました。

子ども情報研究センター
炊き出しから悩み探る

君らを応援しているから

子育てで悩むママたちの悩みを、おしなべて解決する「子育てネットワーク・ピッコロ」

肌で触れあう機会を

「子どもへの暴力防止プロジェクト」の助成団体を紹介する朝日新聞の紙面

「子どもへの暴力防止プロジェクト」の助成団体を紹介する朝日新聞の紙面
(2009年11月11日朝刊生活面)

【子どもへの暴力防止プロジェクト助成を〇9年度に受けた21団体】

所在地	団体名	代表者名 (決定時、敬称略)	プロジェクト内容
青森県 鱒ヶ沢町	鱒ヶ沢町にCAPを普及させる会	代表・菊谷 尚久	鱒ヶ沢町内の全小中学校と特別支援学校でCAPワークショップを実施
青森県 鱒ヶ沢町	養護学校にCAPを呼ぶ会	代表・大澤 雅子	
宮城県 石巻市	あじ朗志組	局長・桶谷 敦	子どもがいない網地島への仙台市内児童養護施設の子どもの招待と、島内高齢者との交流事業
埼玉県 朝霞市	朝霞手をつなぐ育成会	代表理事・田中 泰江	発達障害の子どもの母親が笑顔で子育てができるよう、講習やワークショップなどを実施
埼玉県 新座市	児童相談所一時保護所における子どもの権利保障研究グループ	代表・浅井 春夫	児童相談所一時保護所に入所する子どもたちの実態調査と危機管理実践マニュアルの作成
東京都 新宿区	チャイルドライン支援センター	代表理事・清川 輝基	チャイルドラインフリーダイヤル周知のシール配布と一般向け「実践的聴き方講座」開催
東京都 大田区	てのひら～人身売買に立ち向かう会	代表理事・大塚 綾乃	民間シェルターを利用する女性の子どもたちをケアする子どもサポーターを育成
東京都 大田区	Triple P Japan	代表理事・梅野 裕子	「前向き子育てプログラム (Triple P)」の発達障害児向けプログラムの日本初のファシリテーター養成
東京都 清瀬市	子育てネットワーク・ピッコロ	代表理事・小俣 みどり	中学生が赤ちゃんに触れ、命の尊さを学ぶプログラムで、地域のジュニア子育てサポーターを養成
神奈川県 横浜市	子どもセンターてんぼ	理事長・影山 秀人	シェルタースタッフ及びボランティアが虐待や性被害を経験した利用者への対応方法を身につける研修
神奈川県 伊勢原市	子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク	理事長・山田 不二子	日本に Child First (司法面接士を養成するプロジェクト) 導入のためのトレーナー養成
愛知県 名古屋	子どもの虐待防止ネットワーク・あいち	理事長・高橋 昌久	養育支援家庭訪問員のモデル地区での試行と、実施マニュアルの作成
石川県 かほく市	いしかわ多胎ネット	代表・大木 秀一	多胎児家庭に対するピアサポート活動の効果の実証と、ガイドラインの作成
大阪府 大阪市	ペアレンティングを支援する会	代表・榎木野 裕美	数ある親支援プログラムを親のタイプ別に体系化した冊子作成と研修会の開催
大阪府 大阪市	子ども情報研究センター	理事長・森山 康浩	食事を通して子どもたちと地域や大人とのつながりをつくるための「子ども炊き出しプロジェクト」実施
大阪府 大阪市	大阪市児童福祉施設連盟 養護部会 養育指標研究会	養護部会会長・中田 浩	児童福祉施設の子どもたちへの援助方法の確立のため、アンケート分析と報告書作成
大阪府 豊中市	ソーセージクラブ	代表・平尾 純子	多胎児家庭を支援するために、地域の支援者の組織化を図る事業
徳島県 石井町	石井福祉会	理事長・清重 佳久	母親へのメンタル支援、CAPなどを通して地域で子育てネットワークを構築
高知県 いの町	カンガルーの会	理事長・澤田 敬	虐待予防の知識、親への支援方法について実践指導できる「あまえ子育て」の指導者を養成。
福岡県 福岡市	子どもの村福岡を設立する会	理事長・満留 昭久	里親・里子及び実親支援のプログラムを開発し、社会的養護の支援体制を確立
福岡県 大木町	にじいろCAP	代表理事・重永 侑紀	児童福祉施設の「子どもの権利ノート」利用のテキスト作成と、ワークショップ開催

20件 助成総額 4545万円 (※「鱒ヶ沢町にCAPを普及させる会」と「養護学校にCAPを呼ぶ会」は同じ町内の同趣旨の活動のため、2事業を1件として数えています)

選考委員は、杉上春彦さん（厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課、虐待防止対策室長）、丸山浩一さん（全国児童相談所長会会長、東京都児童相談センター所長）、高井正憲さん（テレビ朝日福祉文化事業団事務局長）、平井公（朝日新聞東京本社生活エディター）、両角晃一（当事業団理事長）、関戸衛（同常務理事）、山田雄一（同事務局長）。

子どもへの暴力防止フォーラム（東京）

朝日新聞社と共同主催

子どもの人権をテーマに、「子どもへの暴力防止フォーラム」を12月12日、東京都千代田区の有楽町朝日ホールで開きました。

エンパワメント・センター（兵庫県西宮市）代表の森田ゆりさんが「子どもの視点でとらえる子どもの権利」の題で講演しました。



パネルディスカッションには、慶応大学医学部の小児科医・渡辺久子さん、弁護士の影山秀人さん、日本社会事業大専門職大学院准教授の宮島清さんも加わり、虐待問題をめぐって4人で意見を交換＝写真。虐待をなくすためには、「子どもの人権について大人が深く理解して尊重することが大切だ」と訴えました。

フォーラムは、08年度に始まった「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」事業が元になって、企画されました。

80周年記念事業

児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

朝日新聞社と共同主催

当事業団設立80周年記念事業の一つで、児童養護施設や里親家庭で生活しながら、進学を希望する高校生へ、入学時に必要な入学金、施設設備費と支度金10万円（合計100万円を限度）を贈るものです。児童養護施設や里親家庭から自立を余儀なくされる子どもたちの進学率は、経済的な理由などから極めて低くなっています。進学を希望する高校生が夢や希望を持てるよう支援していきたいと考えています。

2009年度は5月の募集開始から8月中旬の締め切りまでに86人の応募がありました。応募書類と作文による9月の選考会を経て、大学や短大、専門学校への進学希望者26人が内定。辞退者を除いた23人に応援金が贈られました。

贈呈を受けた高校生を集いを2010年3月23日に東京・築地の朝日新聞東京本社で開催。参加した11人は新聞社内を見学した後の集いで、進学への決意とともに、看護師や美容師、教師になりたい、といった将来への夢を語りました。

また、社会的養護の当事者参加推進団体のNPO法人「日向ぼっこ」の富塚正子さんが特別ゲストとして参加。自身の体験をもとに高校生を励ましました。翌24日は全員で東京ディズニーシーを訪れ、第2期同期生としての交流を深めました。短い期間にもかかわらず、参加者同士すっかり仲良くなり、別れ際には涙を浮かべる生徒もいました。

23人の進学先は次の通り（順不同）。

東京福祉専門学校、東京メディカル・スポーツ専門学校、静岡県立大学、名桜大学、福岡県立大学、国際総合ビューティーカレッジ、神戸女子短期大学、日本航空専門学校、日本社会事業大学、信州豊南短期大学、福岡ECOコミュニケーション専門学校、愛媛大学、北九州市立大学、日本外国語専門学校、国際教養大学、首都大学東京、札幌ビューティーアート専門学校、京都建築大学校、静岡大学、美作大学短期大学部、広島都市学園大学、女子美術大学短期大学部、大東文化大学

朝日夏季保育大学（長野）

朝日新聞社と共同主催。長野県、諏訪市、全国社会福祉協議会、長野県社会福祉協議会、長野朝日放送後援。大同生命厚生事業団協賛

保育従事者の技術と教養の向上のために始まり、56回目を迎えた朝日夏季保育大学は、子どもを取り巻く問題を様々な立場の人に考えてもらおう、と参加の呼びかけを一般の方々にも広げました。7月31日、8月1日に諏訪市駅前市民会館で開催、地元長野県のほか、遠くは宮崎県から、保育士や幼稚園教諭、学童保育の指導員など約500人が受講しました＝写真。

初日の講座でエンパワメント・センター主宰の森田ゆりさんは、暴力やいじめ、差別が子どもに及ぼす影響を解説し、「心の応急手当」として子どもの話を聞くことの重要性を説きました。

2日目は立教大学教授の浅井春夫さんをコーディネーターに「子どもの貧困」をテーマにシンポジウムを開きました。乳幼児を取り巻く貧困の実態が、母子家庭の母親や保育所の理事長らから語られ、浅井さんは「子どもが人生へチ



チャレンジする権利を保障しよう」と訴えました。

絵本作家の村上康成さんは絵本の魅力や絵本を書くときのエピソードなどにふれながら、「絵本の先にある世界にふれて欲しい」と話しました。ウクレレの演奏もあり、会場は大きな拍手に包まれました。

テーマと講師は次の通り（敬称略）。

【7月31日（金）】	
「森が先生！？森の幼稚園」	環境教育事務所 Life time 代表／小菅江美
「内なる力と人権～虐待のない社会のために私たちが できること～」	エンパワメント・センター主宰／森田ゆり
「歌、音楽、マジックで遊ぼう！」	ミュージシャン／おおたか静流 ミュージシャン、マジシャン／大友 剛
【8月1日（土）】	
シンポジウム 「子どもの貧困～スタートラインに並べない子どもたち～」	コーディネーター 立教大学教授／浅井春夫 シンポジスト さやまが丘保育の会理事長／牧 裕子 埼玉育児院施設長／国分光雄 母子家庭の母親
「高機能自閉症、アスペルガー症候群の子どもの理解」	ベック研究所主宰、児童精神科医／吉田友子
「絵本の魅力・絵本の力～自然の歌をききながら～」	絵本作家／村上康成

第3回 演劇ワークショップ「Remix」（東京、横浜）

テレビ朝日福祉文化事業団と共同主催。関東1都6県の各社会福祉協議会後援

関東の児童養護施設で暮らす中学生と高校生を対象に、演劇ワークショップ「Remix」を開催しました。演劇やダンスを通じて表現力やコミュニケーション能力を伸ばし、自己評価を高めるのが目的です。

10月10～12日、11月7～8日（横浜市青葉区のこどもの国自然研修センター）、10月18日、25日、11月3日（朝日新聞東京本社読者ホール）の日程で、俳優でNPO法人演劇百貨店代表の柏木陽さん、振付家でダンサーの早川朋子さんとワークショップコーディネーターの吉野さつきさんの3人が講師を務めました。

さまざまな施設から集まった児童は、他人になかなか心を開くことができず、最初は口数が少なかったですが、回を重ねるごとに打ち解け、最後には一つの作品をみんなで創りあげることができました。

12月26日には「思い出会」を行い、「仲間と出会い、一つのものを創作できて楽しかった」

「自信が持てるようになった。この経験を生かして、いろんなことにチャレンジしたい」など、生徒たちがワークショップで感じたことや思い出を語り合いました。

なお、2007年度より3年間にわたった演劇ワークショップは、所期の目的を達成したため、幕を下ろすことになりました。

第26回福祉施設絵画展（名古屋）

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会主催。当事業団など後援

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会に加入する施設に入所または通所する人たちの作品を展示する絵画展を7月中旬から市内の児童福祉センター、障害者スポーツセンターなどで開きました。

29施設671点の応募があり、特賞6点、入選34点、佳作63点が表彰されました。朝日新聞厚生文化事業団理事長賞は、「海をながめる女の人」を描いた中学1年生の前ノ坊志緒梨さん（和進館児童ホーム）が受賞しました。

キャンプ事業（名古屋）

NPO法人アサヒキャンプ名古屋主催。当事業団後援

NPO法人アサヒキャンプ名古屋が実施した夏の3キャンプと春キャンプを後援、助成しました。

障害のある子とない子が一緒に参加する「アサヒ合同キャンプ」と、自閉症やADHD（注意欠陥・多動性障害）などの子どもたちが参加する「アサヒ夏休み川のほとりキャンプ」が、8月に岐阜県中津川市・乙女溪谷キャンプ場で行われました。

不登校の経験がある子どもを対象にした「アサヒ仲間キャンプ」は9月から2月にかけて3回実施。3月には「アサヒ春休み川のほとりキャンプ」が春日井市少年自然の家で行われました。

障 害 者 の 福 祉

自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）

自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会と共同主催。厚生労働省、文部科学省、日本自閉症協会、テレビ朝日福祉文化事業団、全日本手をつなぐ育成会、日本知的障害者福祉協会後援

自閉症の専門会議としては国内最大級の「自閉症カンファレンス NIPPON 2009」を8月22日、23日、東京都千代田区の大妻女子大学で開催、全国から約800人が参加しました＝写真。



日本の「TEACCH(ティーチ)」の実質的な実践の始まりは、1989年にプログラムの創始者、故エリック・ショプラー教授と3人のトレーナーを日本に招き、当事業団などが開いたセミナーです。

日本の自閉症の人たちへの支援プログラムとして「TEACCH」は、この20年間で着実に根付いてきました。この間、「TEACCH」の考え方を柱に、自閉症の人への理解を深めようと集った有志と当事業団が中心になって開催してきたのがこのカンファレンスです。

8回目を迎えた今回は、米国・ノースカロライナ大学TEACCH部部長のゲーリー・メジボフ教授（顔写真上）、20年前の日本国内で初めてのセミナーでトレーナーを務めた同部セラピスト、キャシー・ハーシーさん（顔写真中）とカイア・メイツさん（顔写真下）が駆けつけました。

今回のカンファレンスは、自閉症支援についての日本とアメリカの20年間の変遷を、幼児期、学校教育、成人期、医療、親の会の5つの視点で振り返ることから始め、次いでTEACCH部での学校教育へのサポートとして大きな柱である、学校コンサルテーションについて、キャシー

さんとメイツさんが最新の取り組みを具体的に話しました。

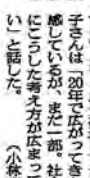
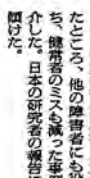
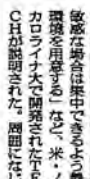
メジボフ教授は、自閉症を理解し、自閉症の人を尊重することが、自閉症の人への支援で一番大切であることをあらためて解説。「できないことに着目するのではなく、どんなサポートや資源があれば、何ができるのかに目を向けよう」と呼びかけました。

また、TEACCHの有力な戦略のひとつの「構造化」や、一人で達成できる「自立課題」を基礎から学ぶ講座、医療現場での実践報告などを通じて医療的サポートを学ぶ講座に加えて、全国の特別支援学校や保育園、親の会などの実践報告による、4つの「分科会」も開催。ほかにも、実践をポスターで発表する「ポスターセッション」、コミュニケーションをサポートする機器の展示、医療現場での支援を紹介するコーナーなど、さまざまなプログラムで、実践的な情報を数多く伝えられるように努めました。

川崎医療福祉大学特任教授の佐々木正美さん(写真)を中心にした実行委員会と、延べ100人を超える若いボランティアスタッフによって、カンファレンスは2日間、滞りなく運営されました。「自閉症を正しく理解する」支援者の輪をさらに広げ、新たな未来を拓いていけるよう、向上を目指します。



大妻学院ならびに関係の方々に、会場の提供をはじめ、多大なご協力をいただきました。謝辞を申し上げます。



9月26日朝日新聞朝刊から

自閉症支援プログラム 課題探る TEACCH 20年の節目に大会

米国の開発され、広められ、自閉症の支援プログラム「TEACCH(ティッチ)」が、約80人が集まる、8月下旬、東京都千代田区の大妻学院に紹介されて20年。採用する学校や福祉施設も少しずつ増えてきた。その背景には「自閉症の人への支援は、他の人も助けることにならなければならない」という考えがある。研究者や家族、教育・福祉関係者、写真家やアーティストも参加した。メジボフ氏は自閉症の特性について、「興味の対象が狭く、レジャーやゲームのようでは、チームの外にある他のものとのつながりが理解しにくい」と分析。約10人の自閉症の人を雇用している米国の配送センターで、作業内容を図解する工夫を立たとし、他の障害者にも役に立つ環境を構築する。など、米・ノースカロライナで開発されたTEACCHが話題された。周囲にはなじみ

「自閉症の人を無理に合わせようとせず、個人の特徴に合わせて環境の方を変えていく」という考えに基づいている。シンポジウムにはノースカロライナ大教授のゲリー・メジボフ氏も写真家やアーティストも参加した。メジボフ氏は自閉症の特性について、「興味の対象が狭く、レジャーやゲームのようでは、チームの外にある他のものとのつながりが理解しにくい」と分析。約10人の自閉症の人を雇用している米国の配送センターで、作業内容を図解する工夫を立たとし、他の障害者にも役に立つ環境を構築する。など、米・ノースカロライナで開発されたTEACCHが話題された。周囲にはなじみ

プログラムが日本に導入された際、臨床研究のモデルとして参加した自閉症の児童さん(40と母の姉子さん(68)横浜市神奈川区)も出席した。20年前は「親の方が悪い」「息子さんをそのまま受け止めるべき」と言われるばかりで、具体的なケアについてはいまいちわからなかったという。主催者によると、現在は特別支援学校などでTEACCHの考え方がと入れられ、「自閉症の人が暮らしやすい環境は、他の人も暮らしやすい」という考えも浸透してきた。姉子さんは「20年が経つてきたと実感しているが、まだ一部、社会全体に浸透した考え方が広まってほしい」と話した。(八木未来)

自閉症を正しく理解すること～自閉症の支援で最も大切なこと～ (札幌、豊見城)
ゲリー・メジボフ教授講演会、日本の南北で

「自閉症カンファレンス NIPPON 2009」のため来日した米国・ノースカロライナ大学TEACCH部部長ゲリー・メジボフ教授ら3人の講演会を8月25日に札幌市、27日には沖縄県豊見城市で開催しました。

この講演会は04年度から08年度まで、熊本、長野、京都、青森、奈良と毎年各地で開催し、それぞれ400～600人を集めてきました。09年度は、TEACCHプログラムの日本への本格的導入20周年を記念して、北海道と沖縄という日本の北と南の2か所で企画しました。学校の夏休みが終わった平日にもかかわらず、両会場とも多くの参加者がメジボフ教授らの話に熱心に耳を傾けていました。

講演テーマは「自閉症を正しく理解すること」と「自閉症の支援で最も大切なこと」。原因もいまだ特定できず、理解の難しい自閉症。教育現場、専門家や親にさえ、正しく理解されていないことが多く、そのことがご本人たちの生活をするうえでの困難をさらに増やし、複雑にしています。

メジボフ教授は「自閉症は脳の障害（damage）ではなくて脳の働き方の違い（difference）なのです」と説明したうえで、「その違いを正しく理解することが大切」と訴えます。また、セラピストのハーシーさんとメイツさんは、学校現場や家庭で実際に自閉症の子どもたちにどう接するかを具体的に分かりやすく解説しました。

今回の開催では、北海道と沖縄県の自閉症協会をはじめ、開催地の関係者に多大なご協力をいただきました。この催しをきっかけに、地元での活動がさらに活発になることが期待されます。自閉症の人たちへの支援が地域で根をはり、充実するように、今後も各地の関係者と協力しながら、ひとつずつ活動を積み重ねていきます。

◇講演の概要

講 師 ゲーリー・メジボフ（ノースカロライナ大学TEACCH部部长）

キャシー・ハーシー（同部セラピスト）

カイア・メイツ（同部セラピスト）＝敬称略

内 容 講演「自閉症の人たちを正しく理解すること～TEACCHプログラムの真髓」

講演「構造化された指導」

講演「自閉症の支援で最も大切なこと」

参加費 3000円

【札幌会場】

（北海道自閉症協会と共同主催。厚生労働省、文部科学省、北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、JDDネット北海道、北海道発達障害者支援センター「あおいそら」、発達障害者支援道北地域センター「きたのまち」、発達障害者支援道東地域センター「きら星」、札幌市自閉症・発達障がい支援センター「おがる」、JAAS北海道支部、JC-Net Hokkaido、PECS道央研究会後援）

と き 8月25日 10:00～16:00

ところ かでるホール（札幌市中央区）

参加者 約300人

【豊見城会場】

（沖縄県自閉症協会と共同主催。厚生労働省、文部科学省、沖縄県、豊見城市、沖縄県教育委員会、豊見城市教育委員会、沖縄県発達障害者支援センター、障害者就業・生活支援センター ティーダ&チムチム、沖縄県社会福祉協議会、沖縄県手をつなぐ育成会、沖縄県知的障害者福祉協会後援）

と き 8月27日 10:00～16:00

ところ 豊見城市立中央公民館大ホール（豊見城市平良）

参加者 約600人

自立課題の作り方講座（和歌山、下関）

和歌山

和歌山県発達障害者支援センターポラリス、NPO法人BONと共同主催
和歌山県知的障害者施設協会、和歌山県共同作業所連絡会後援

「自閉症の人たちの自立課題の作り方講座」を8月29日、30日に和歌山県子ども・女性・障害者相談センターで開催しました。県全域や大阪南部の発達障害者支援センター、施設や作業所の職員ら30人が参加しました。

児童精神科医の村松陽子さん、社会福祉法人北摂杉の子会スーパーバイザーの中山清司さん、大阪府発達障害者支援センターアクトおおさかの高橋亜希子さんの3人を講師に迎えました。内容は「子ども」から成人用にアレンジし、就労へのスキルを身につけることを自立課題のねらいにしました。

初日は当事業団制作のDVDの上映と、中山さんによる「自閉症者に対する就労支援について」の講演。2日目はグループに分かれ、身近な材料を使ってモデルケースの「自立課題」作りに取り組みました。

支援の要である発達障害者支援センターと共同主催したことで、和歌山県内での自立課題への広がり期待される充実した内容になりました。

下関

山口県発達支援センター「まっぷ」と共同主催
朝日新聞社、山口市、下関市、山口県教育委員会、山口県自閉症協会後援

2010年1月24日、下関市の環境みらい館で開かれ、山口県内や福岡県、大分県から福祉施設や特別支援学校の関係者、保護者ら34人が参加しました。講師は昨年引き続き、和歌山と同じ村松陽子さん、中山清司さん、高橋亜希子さんの3人をお願いしました。

受講者は6グループに分かれ、自立課題の理論を学んだ後、「自分の気持ちがあまく表現できない」「アニメ好き」などの特徴を持った、架空の少年を想定。グループで話し合いながら、空き箱やブロックなど身近な材料を使って、この少年の自立課題作りに取り組みました。

午後からは、作ったばかりの自立課題でロールプレイを行いました。講師のアドバイスやグループのメンバーの意見からアイデアが生まれるたびに次々と改良し、ロールプレイを繰り返しました。

受講者の一人はアンケートに、「実際に作ってみることで、その子について気づいていない部分がたくさんあることが分かり、何度も評価することの重要性を痛感した」との感想を寄せていました。

ジョブコーチ・ネットワーク／JC-NET（米子、東京）

NPO法人JC-NET（ジョブコーチ・ネットワーク）と共同主催

障害のある人たちを、就労の現場でどう支えるかという福祉の視点に加え、企業活動・就労にどう取り込んでいくかという企業側の視点でのアプローチが活発にされるようになりました。「ジョブコーチ」とは、障害のある人と企業の双方をサポートする役割を担う支援者のことです。

そのネットワーク「JC-NET（ジョブコーチ・ネットワーク）」は、当事業団の支援で2004年度に創設され、05年度にはNPO法人を取得して、厚生労働省指定の「職場適応援助者養成研修」などの事業を積極的に展開しています。

当事業団は、ジョブコーチの正しい理解、普及をはかり、障害のある人の就労を支援する人材や資源を育成するために、JC-NETとの共同主催で09年度も下記の事業を実施しました。

1. ジョブコーチ・ネットワーク（JC-NET）フォーラム とっとり

ジョブコーチに関する情報提供による質的な向上と、障害のある人への就労支援の普及、地元ネットワークの創設のために各地で開催する「ジョブコーチ・ネットワークフォーラム」を鳥取県米子市で開催しました。

- ・ とき 2009年6月20日 10:00～16:00
- ・ ところ 米子コンベンションセンター BIG SHIP・国際会議室
- ・ 参加者 約120人
- ・ 参加費 3000円
- ・ 内容 講演「就労支援のいまとこれからの課題」小川浩（大妻女子大学）、同「就労移行支援と地域の支援ネットワーク」志賀利一（電機神奈川福祉センター）、シンポジウム「障害のある人の一般就労への取り組みとこれから～日本でいちばん小さな県からの発信」久保田康之、森本哲夫（鳥取県商工労働部）、永田良孝（鳥取県福祉保健部）、足立一穂（鳥取県教育委員会）、福谷和彦（障害者就業・生活支援センターしらはま）、尾田雅之、中島哲朗（障害者就業・生活支援センターしゅーと）＝敬称略

2. JC-NET（ジョブコーチ・ネットワーク）会議

全国のジョブコーチが集う国内最大の会議で、ジョブコーチが進む方向性を示す講演、ワークショップ、実践発表など、充実した熱気あふれる2日間の会議です。

- ・ とき 2010年3月13日・14日
- ・ ところ 大妻女子大学 多摩キャンパス大講義室ほか
- ・ 参加者 約350人
- ・ 参加費 1万円（JC-NET会員は8000円）
- ・ 内容
13日：キーノート・スピーチ「就労支援のいまとこれから」小川浩（大妻女子大学）、ワ

ークショップ①「地域の就労支援のネットワークをどうつくる」志賀利一（電機神奈川福祉センター）ほか②「企業人からのメッセージ」堀江美里（WEL'S TOKYO）ほか③「教育から就労へ～発達障害のある人の就労を考える」山本仁（金沢大学附属特別支援学校）ほか④「障害のある人の就労支援の制度を生かすみち」酒井大介（加島友愛会）ほか

14日：実践発表分科会①・②（各分科会5人のスピーカーが発表）、ワークショップ⑤「ジョブコーチのスピリッツが地方を変える」小松邦明（東京都杉並区障害者雇用支援センター）、シンポジウム「ジョブコーチ～みらいについて考える」松尾江奈（ワークアシストやまびこ）、中村淳子（ティータ&チムチム）、酒井大介（加島友愛会）、コーディネーター・小川浩（大妻女子大学）

このほか、ジョブコーチや障害のある人の就労支援について基礎から学ぶ「入門講座」、日ごろの実践をポスターで紹介するポスターセッションなどを同時に開催しました。

第26回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）

全日本ろうあ連盟、朝日新聞社と共同主催。厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会後援。NEC協賛。東京都聴覚障害者連盟協力

手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進をはかるため1984年に始まった「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」は、26回目を迎えました。8月29日、千代田区の有楽町朝日ホールで行われた本選では、原稿とビデオの審査で選ばれた10人が舞台上に立ち、手話と音声と同時に使ったスピーチで日ごろの練習の成果を競いました。開会式では、秋篠宮妃殿下が「将来の夢を美しく、豊かな手話で表してください」と述べられました。

今回は、昨年を上回る71人の応募がありました。1位に選ばれたのは、「私の目標、これからの福祉」をテーマに発表した群馬県立藤岡北高校2年の森香裕さん＝写真。



2位の岡山学芸館高校3年・山本明珠花さんは、「ろうあ者の国際交流」について、留学体験から得た、将来の目標を力強く語りました。3位は盛岡女子高校3年の吉田晴香さん。「思いを受け継ぐ」をテーマに、母親や祖母、先輩から学んだことを大切に受け継ぎたいと話しました。

奨励賞は岡山県立水島工業高校2年の太田隼平さんと、香川県立三木高校3年の中村千紘さん。入賞者には賞状とトロフィー、協賛のNECからパソコンや電子辞書などの賞品が贈られました。

参加者全員にNECから、手話スピーチの録画DVDと記念品が贈られました。

特別プログラムはサッカー解説者の宮澤ミシェルさんが「夢に向かって」と題して講演、サッカーに打ち込んだ体験を披露しながら、高校生を励ました。

審査員は小椋英子・日本手話通訳士協会会長、矢田宏人・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、宮本一郎・東京都聴覚障害者連盟理事長、西滝憲彦・全日本ろうあ連盟理事、松本正志・全日本ろうあ連盟理事、石橋英昭・朝日新聞論説委員のみなさんが務めました。

第28回名古屋市手話通訳問題研修会（名古屋）

 名古屋市聴覚障害者協議会主催。名古屋市、名古屋市社会福祉協議会、当事業団後援

「よりよい手話活動を求めて」をテーマにした研修会が9月13日、名古屋市北区の市総合社会福祉会館で開かれました。

全国手話通訳問題研究会運営委員の森川美恵子さんと佐々木良子さんが講演。「手話通訳の活動は、日ごろの現場では、ほとんど一人で担当するため、事前の検討がきわめて大切だ」などと語りました。午後からは寸劇が演じられ、この寸劇をテーマにグループ討議が行われました。

高次脳機能障害を理解する講演会（東京、大阪）

 朝日新聞社と共同主催。NPO法人日本脳外傷友の会など後援

交通事故や脳卒中などで後天的に脳損傷を受けた高次脳機能障害者は、日常生活で、さまざまな問題に直面しています。しかも外見からは障害がわからないため、一般の人たちだけでなく、医療や福祉関係者の理解も十分とは言えません。当事業団は、当事者や家族が安心して地域で生活するために、「高次脳機能障害」の基本的な理解を進める講演会を東京と大阪で開きました。

東京会場

1月23日、千代田区の有楽町朝日ホールで開催。当事者とその家族をはじめ、福祉、医療関係者ら700人余りが参加しました。



2010年1月16日朝日新聞朝刊生活面から

まず、中島恵子・帝京平成大学教授が図を示しながら、脳の仕組みや、高次脳機能障害を引き起こす要因、症状などをわかりやすく説明しました。次に、高次脳機能障害を題材にした映画「ガチ☆ボーイ」のメイキングビデオを上映した後、脚本を手がけた西田征史さんが、映画の中で、この障害が引き起こす家族や友人の人間模様について語り、参加者は、この障害についての理解を深めました。休憩をはさみ、精神科医の納谷敦夫さんが、長男の受傷後、当事者の家族として歩んできた足跡を語りました。

最後は、自転車競技の練習中の事故で高次脳機能障害になったものの、北京パラリンピックの金メダリストになった石井雅史さんと、主治医の橋本圭司・国立成育医療研究センター・リハビリテーション科長の対談。石井さんが事故直後の無気力な状態を脱し、自転車競技に復帰したいきさつなどをユーモア交じりに披露。2人の軽妙なトークに、会場は笑いに包まれました。

大阪会場

2月28日、大阪市西区の大阪YMCA会館で、東京とほぼ同じ内容の講演会を開催しました＝写真。橋本圭司さんと石井雅史さんの対談に、石井さんの奥さん智子さんも飛び入りで参加。夫を支えながらも自分自身の時間を大切にするポジティブな生き方に、会場の約500人から大きな拍手が送られました。



申し込みは両会場とも順調で、石井さんのインタビュー記事が朝日新聞に掲載された直後に、東京では1000人に、大阪では650人に達しました。各地の医療機関で高次脳機能障害と診断されるケースが増え、関心が高まっているようです。

高次脳機能障害支援セミナー（名古屋）

名古屋市総合リハビリテーション事業団、厚生労働科学研究東海ブロック連絡協議会と共同主催

高次脳機能障害の正しい理解と支援の輪を広げていく講演会を8月29日、名古屋市中区の鯉城ホールで開きました。高次脳機能障害の中でも最も「見えにくい」と言われる遂行機能障害に焦点を当てました。第1部は名古屋市総合リハビリテーションセンター高次脳機能障害支援部長の深川和利さんの講演「高次脳機能障害—何が問題か」。第2部は当事者と支援者のインタビュー方式で「就労体験報告」が行われ、第3部では神戸大学大学院保健学研究科教授の種村留美さんが「遂行機能障害の理解と訓練・支援の実際」について講演し、正しい理解と支援を訴えました。

精神障害者ホームヘルプガイドブック

当事業団編集・発行

「地域でふつうに暮らすために」をテーマに、朝日福祉ガイドブック「精神障害者のホームヘルプサービス」(写真)を作成しました。精神障害の人へのホームヘルパー支援を考えるため、当事者や経験豊かなヘルパー、医師などから寄せられた事例をまとめました。監修は大阪府立大学准教授の三田優子さんです。

- ◇ 主な内容 精神障害者の生活のしづらさへの付き合い方／精神障害者とどう付き合う？／心と暮らしを支えるホームヘルプサービスほか
- ◇ B5判92ページ、頒布800円。申し込み・問い合わせは73ページをご覧ください。



全国在宅精神障害者267万5千人のホームヘルプサービス利用の実績は0.4%とされています(2005年、厚生労働省精神保健福祉課調べ)。対象は「日常生活に支障のある精神障害者」なので、ほとんどの方が利用の対象になるはずですが、必要とされている割には利用が増えていません。日常生活に困っていても「ヘルパーは必要がない」と、がんばっている当事者や家族の姿が浮かび上がってきます。

なぜ利用者が伸びないのでしょうか。自宅に外部の人を入れることに抵抗がある、ありのままの自分を他人に見せることができない、他人とうまくコミュニケーションがとれず緊張するなど精神障害の特徴から利用がしづらいなどが考えられます。

しかしヘルパーさんを利用している人たちからは、とても高い評価を受けているのです。「暮らしを支えること、支えられること」は、人間としての共通する本質的なものです。ゆったり暮らしたい、安心して暮らしたい、楽しく暮らしたいと、誰もが考えています。ヘルパーさんの支援を受け、精神障害のある人が自分の住みたい街で生活するのは特別なことではなく、当たり前のことなのだとガイドブックは教えてくれます。

多くの精神障害者は、再発を心配しながら毎日を必死で暮らしています。このガイドブックにはホームヘルプサービスを受け、生き生きと暮らす仲間の文章があります。一人でも多くの方が使えるサービスを堂々と使い、一度の人生を楽しんでいただきたいと思います。また、支える側のヘルパーさんには精神障害を正しく理解し、自信をもって支援ができるよう、経験豊かなヘルパーさんや当事者、関係者のみなさんが、体験談やいろんな角度からの事例を寄せてくれました。このガイドブックをきっかけに、一人でも多くの精神障害者が地域で生活できるような社会をめざしていきたいと思います。

なっちゃんの闘うつ記～みんなで「うつ」を考えよう～（大阪）

NPO法人精神障害と社会を考える啓発の会と共同主催
大同生命厚生事業団、大阪府立健康科学センター後援
ふれあいの里、大阪市精神障害者支援者職員連絡協議会協力

精神疾患と障害を「ひとごと」から「わがごと」へ、と溝を埋めていく取り組みをしているNPO法人「精神障害と社会を考える啓発の会」と当事業団は10月31日、大阪府立健康科学センターで「うつ」について考える講演会を開き、約100人が参加しました＝写真。

「鬱姫なっちゃんの闘鬱記」で自らのうつ体験をイラストでわかりやすくまとめた、薬学部出身の杉山奈津子さんをゲストに迎え、薬の知識のほか、「あせらない」「無理しない」など、「うつ」とうまく付き合うコツについて話を聞きました。

また、精神科医で佛教大学教授の漆葉成彦さんは「うつは治る病気で、正しく理解することが大切」と解説。2部では漆葉さんのコーディネートで、杉山さんのほか、家族や産業保健師を交えて「うつ」を受け入れ、医療に結びつけることの重要性を話し合いました。

会場では杉山奈津子さんの原画展も開催しました。



視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」（東京）

聖明福祉協会と共同主催

視力障害のある大学生を支援する「聖明・朝日盲大学生奨学金」の貸与式が7月4日、東京都内のホテルであり、第41期生の4人に目録が手渡されました＝写真。

国内初の視力障害学生を対象とした奨学金制度として1969年に創設され、進学希望者の向学心を支えてきました。貸与者総数は189人となりました。

貸与式では本間昭雄・聖明福祉協会理事長が「学生生活を楽しみ、将来に向かって勇気と夢を持って活躍してください」とあいさつしました。

4人とも選考委員会で全会一致の決定だ



ったことが報告されたあと、関戸衛・当事業団常務理事が一人ずつ目録を手渡しました。続いて矢田宏人・厚生労働省自立支援振興室長が「この奨学金が皆さんの夢実現のための一助となるよう期待します」と励ましました。

近年は障害学生へ門戸を開く大学の数も増え、点字での受験が認められたり、障害者支援室が設けられたりするなど、バリアフリー化が進んでいます。

歴代の貸与者の中には、弁護士や大学教授、市議会議員、ピアニストなど多方面で活躍する人も少なくありません。

「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」(東京)

内閣府主催。当事業団ほか後援

「障害者週間の集い」が12月3日、日本学術会議講堂(東京都港区)で開かれました=写真左。「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」の最優秀賞、計5人に福島瑞穂・内閣府特命担当相から表彰状が贈られ、作文の受賞者3人は自作を朗読しました=写真右。最優秀賞



の受賞者は次の通り(敬称略)。

【作文部門】 熊本県南阿蘇村立久木野小学校4年 藤崎未夏
新潟市立新津第五中学校2年 西田拓哉
宮城県仙台市 沼田洋平

【ポスター部門】京都市・立命館小学校5年 高木京香
京都市立京都御池中学校3年 山本英未

第28回肢体不自由児・者の美術展(東京)

日本肢体不自由児協会主催。厚生労働省、文部科学省、当事業団など後援

第28回肢体不自由児・者の美術展の入賞者の表彰式が、12月3日に東京・池袋の東京芸術劇場であり、絵画と書の計2作品に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。

入賞者のうち、主な特賞は次の通り(敬称略)。

【厚生労働大臣賞】

絵画 福島美津子（広島市西部障害者デイサービスセンター）
 コンピューターアート 宮下博（三重県・はなの里）

【文部科学大臣奨励賞】

絵画 福田洋明（長崎県立諫早養護学校高等部3年）
 書 蒔苗紬（青森県立青森第一高等養護学校2年）

【東京都知事賞】

絵画 大志田洋子（東京都世田谷区）
 書 立石大伸（東京都・筑波大学付属桐が丘特別支援学校小学部2年）

【朝日新聞厚生文化事業団賞】

絵画 末広義仁（長崎県立諫早東養護学校小学部5年）
 書 吉田匡宏（和歌山県・ひまわり作業所内通園施設みかん）

第38回聴美会展（名古屋）

中部聴力障害者美術同好会主催。愛知県、名古屋市、当事業団など後援

聴覚障害の美術愛好家らが自主運営する美術展「聴美会展」が7月28日から8月2日まで、名古屋市民ギャラリーで開催されました。22人の出展者から、絵画、工芸、写真など75点が展示され、最優秀賞の朝日新聞厚生文化事業団賞は、写真の山口三木男さんが受賞しました。

第44回名古屋市障害者作品展示会

名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会主催。当事業団など後援

第44回名古屋市障害者作品展示会が12月1日から6日まで、名古屋市博物館で開かれました。3歳から93歳までの障害者が製作した書道33点、絵画93点、写真27点、手芸35点、工芸57点の5部門245点を展示。期間中924人が見学に訪れました。当事業団は「朝日賞」として5部門に楯と賞状を贈りました。

第47回心身障害問題を考える集い（名古屋）

社会福祉法人あさみどりの会主催。当事業団後援

第47回心身障害問題を考える集いが5月30日、名古屋市中区の朝日ホールで開かれ、発達障害のある人の社会的自立をテーマに講演と対談が行われました。

発達障害のある人たちが暮らしやすい世の中というのはどういうものか、について川崎市自閉

症協会会長の明石洋子さんが講演。自閉症の息子の徹之さんが地域で普通に暮らすための取り組みをエピソードも交えて披露しました。その後、「生きにくさをもった人たちの社会的自立を考える」をテーマに、明石さんと名古屋大学名誉教授の蔭山英順さんが対談。子どもから大人に連なる支援のあり方などを、大人になってからの徹之さんの映像を交えて話し合いました。

第30回障害者歩くスキーの集い（札幌）

朝日新聞北海道支社と共同主催。三菱電機株式会社協賛

第30回障害者歩くスキーの集いを1月17日、札幌市南区の滝野すずらん丘陵公園で開き、子どもから高齢者まで、131人の男女が、それぞれのペースで新雪の滑りを楽しみました=写真。

札幌市周辺の大雪のため参加できなくなった人もいましたが、出場者は零下4度のなか、1キロ、3キロ、5キロ、7キロの4種目に分かれて、さわやかな汗を流しました。ボランティアも多数、運営に加わり、大会を盛り上げました。



第30回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（北九州）

九州車椅子バスケットボール連盟と共同主催

第30回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会が2月27日、28日、北九州市八幡東区の市立総合体育館をメイン会場に開かれ、九州・沖縄の各県から14チームが参加しました。

準決勝では太陽の家スパーズ(大分)が長崎サンライズ(長崎)に大勝し、SEASIRS(沖縄)がHAGAKURE・D(佐賀)を下しました。5度目の同カード対決となった決勝では、太陽の家スパーズが57-46でSEASIRSを破り、5連覇を果たしました=写真。

決勝に残った両チームは5月、東京で開催される内閣総理大臣杯争奪第3



9回日本車いすバスケットボール選手権大会に九州代表として出場。3位決定戦に勝ったHAGAKURE・Dは9月に群馬県で開かれる全国選抜大会に出場します。

車いすの格闘技と言われるほどの激しいスポーツで、転倒者も続出しました。相手のブロックをたくみにかわし、華麗なシュートを放つ様子は、健常者よりスピードがあり、見ごたえがありました。

第21回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（熊本）

九州車椅子バスケットボール連盟、九州車椅子ツインバスケットボール委員会主催。当事業団など共催



第21回九州車いすツインバスケットボール選手権大会は6月20日、21日、熊本市の県立総合体育館で開かれ=写真、九州・沖縄から12チームが参加しました。

決勝では「太陽の家ブレイカーズ」（大分）が「沖縄フェニックス」を75-68で下し、8年連続15回目の優勝を果たしました。3位決定戦は、籠球会（福岡）が長崎シャドウナイツを1点差で破る大接戦でした。

ツインバスケットボールは、日本で考案された競技で、下肢だけでなく上肢にも障害がある、重度の障害者も参加できるのが特徴です。フリースローサークルの中にもう一つ低いゴールがあり、障害の程度によってシュートの方法が違います。

障害のせいで高いゴールを狙えなくても、低いゴールにシュートを決めたり、ブロックしたりすることで、選手一人ひとりが存在感を発揮し、達成感も感じることができます。

選手間のパスワークが重要な競技で、お互いの障害の程度を把握し、意思を通じ合わせて正確なパスができるように、日頃から練習が欠かせません。

会場では、試合に出していない選手たちも、コート上の仲間に大きな声援と拍手を送っていました。

キャスターの生島ヒロシさんの進行で、「ウイズ・エイジング」を提唱した杏林大学教授（現・国立長寿医療研究センター病院長）の鳥羽研二さん、認知症だった母親を7年間介護した作家の落合恵子さん、75歳で2度目のエベレストに登頂したプロスキーヤーの三浦雄一郎さんが「老い」の迎え方について話し合いました＝写真。



落合さんは自身の介護体験を交え、「子どもとお年寄りにやさしい町はだれにとっても住みやすい町です。年を重ねることに喜びを持って生きることができる社会をつくっていきましょう」と話しました。また、三浦さんは「いつ死んでもいいと思えば、年を取るのはそんなに怖くない」と語り、同じプロスキーヤーで101歳で亡くなった父・三浦敬三さん直伝の長寿体操も披露してくれました。

三浦さんの主治医でもある鳥羽さんは「三浦さんはホルモン補充などに頼ることなく、自分の老いを客観的に見ながら、トレーニングをしています。その人なりの老化を個性にする三浦さんの加齢への挑戦は『ウイズ・エイジング』の考えに共通します」と、専門の視点で分析。認知症についての基礎知識や対応の仕方についても解説しました。

両会場とも生島さんの軽妙な進行で、なごやかな雰囲気には終始しました。参加者のアンケートには「高齢者や認知症という、暗くなりがちなテーマなのに、笑いがあり、明日からまたがんばろうという気持ちになれました」といった感想もあり、大変好評でした。

高齢者訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(千葉、宇都宮、横浜、川崎)

当事業団主催

高齢者向けの施設の入居者や利用者らを対象に、日ごろあまり会うことができない音楽家や力士らとの交流をはかるプログラム「ゆうゆうビジット」を09年度から始めました。初年度は特別養護老人ホームや在宅介護支援施設の計4カ所に、出演協力者が楽しい「ひととき」を届けました。

2010年2月3日の第1回の訪問先は、千葉県横芝光町の特別養護老人ホーム吉祥苑。歌や朗読など多彩な活動をしている、おおたか静流さんと、音楽とマジックで幅広く活躍する大友剛さんが、高齢者たちを励ました。ホールに集まった60～90代の90人は、おおたかさんが歌う「赤とんぼ」や「りんごの歌」などに熱心に聴き入っていました＝写真。



大友さんはピアノ演奏とマジックを披露し、ホールは歓声に包まれました。

第2回は2月8日、高砂部屋の三段目の朝弁慶（20）と序二段の朝久保（23）が横浜市旭区の「南希望が丘地域ケアプラザ」を訪問。デイサービスの提供を柱にした在宅介護支援施設に集まった約60人のお年寄りと交流しました。2人の力士が四股を踏むと、お年寄りたちは笑顔で一斉に「よいしょ」とかけ声をかけ、場を盛り上げました。同行した元力士の松田哲博マネージャー（49）が番付表の見方や相撲の歴史を説明。調理室で職員と一緒にちゃんこ鍋を作って、ふるまいました。お年寄りたちはちゃんこについての解説を聞きながら、舌鼓を打っていました。

第3回は2月10日、前回と同じ朝弁慶と朝久保の2人が、宇都宮市田野町の特別養護老人ホーム「宮の里」を訪問。お年寄り127人に、室内に並べたマットの上で相撲の技を披露すると、大きな歓声が上がりました。ちゃんこ鍋を楽しんだあと、最後に力士と握手をして、記念撮影も。抱きかかえてもらったお年寄りの中には、涙を流して喜ぶ人もいました。

第4回は3月10日、女優の日色ともゑさんと、ギターとマンドリンの2人組「マリオネット」が川崎市多摩区宿河原の特別養護老人ホーム「しゅくがわら」を訪問しました。約60人のお年寄りに、ポルトガルギター奏者の湯浅隆さんとマンドリン奏者の吉田剛士さんの「マリオネット」は、映画の主題曲など4曲を演奏。日色さんはこの日のために選んだ童話と詩を朗読しました。最後は日色さんが詩を朗読するのに合わせて「マリオネット」が演奏し＝写真、息のあったパフォーマンスに大きな拍手が送られました。

力士訪問 お年寄り笑顔



高砂部屋は体の大きな力士を見て大喜びだった。8日、横浜市旭区

高砂部屋の2人 福祉施設に

高砂部屋の力士2人が8日、横浜市旭区の福祉施設「南希望が丘地域ケアプラザ」を訪問し、高齢者約60人と交流した。相撲の技を披露したり、一緒にちゃんこ鍋を食べたりした。
朝日新聞厚生文化事業団が福祉施設にいる高齢者を元気づけようと企画した。
訪問した力士は、朝弁慶（三段目）と朝久保（序二段）。高砂部屋の松田哲博マネージャーも同伴した。
力士が四股を踏むと、高齢者が「よいしょ」と、笑顔でかけ声をかけた。大木強吾さん（70）は「力士と会えて楽しかった。上を目指して頑張ってください」と話していた。

2月9日朝日新聞朝刊神奈川版から



朝日高齢者福祉セミナー（名古屋）

愛知高齢者福祉研究会と共同主催

「21世紀の高齢者福祉を考える～人と緑が溶け合う暮らし」をテーマに6月14日、名古屋市中区の朝日ホールで開催し、医療関係者、行政関係者、学生、一般市民ら243人が参加しました。今回は、心地よい環境の中で老後を安心して過ごしていくための「緑の中での地域ケア」の実践を取り上げるとともに、まちづくりや生きがい活動について考える内容でした。

基調講演は、愛知たいようの杜理事長の吉田一平さんが、多世代交流自然村「ゴジカラ村」（愛知県長久手町）で、「雑木林に学ぶ新時代のコミュニティ」を目指してきた取り組みを紹介。他者の力を上手に借りる必要性を強調し、「雑木林に学ぶという観点から、『ゆっくり』『だいたい』がキーワードだ」と話しました。

シンポジウムは「老後を地域で安心して暮らすために」と題し、まちづくりの担当者やケアハウスの住人ら4人が、それぞれの立場から取り組みや課題などについて発表しました。

パネリスト	吉浜まちづくり協議会理事長	井野 清彦
	南医療生活協同組合小規模多機能ホームもうやいこ管理者	田中よしみ
	豊田市社会福祉協議会地域ふれあいサロン生きがい活動推進員	伊藤八代美
	ゴジカラ村ケアハウス住人	田中 修治
座 長	元中日新聞生活部記者	高間 睦
		＝敬称略

朝日福祉ふれあいサロン「親の介護・自分の老後」（大阪）

当事業団主催。大同生命厚生事業団後援

自らの老後をはじめ、年老いた親やパートナーの介護など、日々の不安を解決するため、専門家による知識や情報に耳を傾け、健康、医療、介護など「老後」を考える講座です。4月に大阪市北区の朝日カルチャーセンターで開講し、9月まで計6回の講演は毎回、ほぼ満席でした。

1994年に始まり、09年度で16年目になりましたが、一定の役割が果たせたことから今回が最終回となり、惜しむ声に送られて幕を閉じました。

参加費は6000円（6回分）。



テーマ、講師は次の通り（敬称略）。

4月 5日	「年を重ねて、必要となる社会支援」 大阪介護支援専門員協会研修・センター部長	福田 弘子
5月10日	「がん——もっと良く知ろう」 大阪大学大学院医学研究科教授	杉山 治夫
6月 7日	「食事——ちょっとの工夫で健康百寿」 若さの栄養学協会管理栄養士	林 敬子
7月 5日	「自分らしく生き、自分らしく終えるために」(写真前ページ) はあとふるグループ代表	島田 永和
8月 2日	「気をつけよう！薬の副作用」 大阪薬剤師会理事	山村万里子
9月 6日	「シニアの地域ボランティアのすすめ」 大阪ボランティア協会事務局長	早瀬 昇

第9回「懐かしの童謡・唱歌を歌いましょう」(大阪)

大阪ガス、高齢者外出介助の会と共同主催

10月14日、大阪市中央区のドーンセンター7階ホール（定員500人）で開催しました。麻生夏代さん（日本童謡・唱歌響会会長）の歌唱指導で「鉄道唱歌」「朧月夜」「港」などの唱歌を合唱しました。

2部ではマリンバ演奏家による「イキイキコンサート」で昭和メドレーなどの演奏もあり、盛り上がりました。今回が最終回となり、長年開催に協力していただいた出演者の方々に感謝状を贈呈しました＝写真。

会場の皆さんから22万4711円の募金をいただきました。



福祉教育・福祉啓発推進

第5回自殺防止事業 「自殺!? ちょっと待って!」—思いとどまってもらうために (福岡)

福岡いのちの電話と共同主催。朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、福岡市後援
大同生命厚生事業団、グリーンコープ生協ふくおか協賛

警察庁は2009年5月、08年中の自殺者数を3万2249人と発表しました。前年に比べ844人少なくなっているものの、3万人を超えたのが、1998年以降11年連続になりました。特に30代は4850人と史上最多を記録、子どもも中学生が60人、小学生が4人という胸の痛む数字でした。

20代後半から30代の人たちは、バブル崩壊後の「就職氷河期」を経験した「ロストジェネレーション」世代と呼ばれ、経済情勢の悪化が招いた生活不安は中高年層だけでなく、若い世代に広がっているとの指摘もあります。自助努力や自己責任が声高に叫ばれるなかで、「助けて」と言えない若者が増加しているようです。

いま、自殺という危機に直面している人たちに、私たちは何ができるのか——。「世界自殺予防デー」(9月10日)にちなみ、この深刻な問いを考える講演会を前年に続き、9月12日に福岡市中央区の都久志会館ホールで開催。福岡をはじめ九州各県から約180人が参加しました。

第1部は関西学院大学客員教授で元NHK解説主幹の藤田太寅(たかとら)さんが「リハビリで知る いのちのことばの意味」と題して、ユーモアも交えた、分かりやすい語り口で講演しました。自身が講演中に脳梗塞で倒れ、リハビリに励んだ経験をもとに、「排尿と人間の尊厳」について語り、診療報酬の関係で重症患者が必要な医

自殺防止へ各機関連携密に

福岡でシンポ 窓口一本化も提言

全国で11年連続で3万人を超える自殺を食い止めようと12日、福岡市中央区で公開講座「自殺!? ちょっと待って!」が開かれた。10日の「世界自殺予防デー」にちなみ、福岡いのちの電話と朝日新聞

厚生文化事業団が主催した。約180人が参加し、シンポジウムでは「自殺を防ぐには、各機関の緊密なネットワークづくりが必要だ」という提言があった。シンポジウムでは、冒頭に

講演した元NHK解説主幹の藤田太寅さんがコメントターミナルを務め、法テラス福岡所長の吉野正弁護士と福岡市消費生活相談員の川添直美さんをパネリストに迎えて開かれた。

と体験談を述べたうえで、「1人で全機能を持つのは不可能。緊密なネットワークがあれば救える命がある」と訴えた。川添さんも「私たちがさ

え、役所の間をピンポン球のように行き来する場合があります。せつかく消費者庁ができたので、連携しやすくなれば」と期待を口にした。

これを受けて、藤田さんは縦割り行政の問題を指摘。一つの窓口ですべての相談ができるような体制づくりの必要性を強調し、民主党政権の対応を見守る姿勢をみせた。また「子どものころから金銭教育をすることも必要だ。クレ

ジットカードを使うときや、新車と中古車を買うときの負担とリスクが考えられるようになれば、返済に困る事態も減るはずだ」と提言した。

療やリハビリを受けられない“診療難民”が増加している、と指摘。「日本のリハビリ技術は大変進んでいるが、その恩恵を脳卒中の患者200万人が受けられるようにしたい」と結びました。

第2部のシンポジウム「生活破綻に至らないために」では、「自殺を防ぐには、各機関の緊密なネットワークづくりが必要だ」という提言がありました。

パネリストは、弁護士で法テラス福岡所長の吉野正さんと、福岡市消費生活相談員の川添直美さんの2人。吉野さんは、ある中小企業の経営者が債務免除のめどがついたとたんに自殺した例を挙げて、「法的な支援だけでなく、精神的な支援があれば、防ぐことができた。一人ですべての機能を持つのは不可能であり、緊密なネットワークがあれば、救える命がある」と語りました。

縦割り行政の問題は深刻なようで、川添さんは「私たちのような相談員でさえ、役所の間をピンポン球のように、行ったり来たりする場合がある」と、関係窓口がバラバラに対応している不便さを指摘しました。

コメンテーターを務めた藤田さんも、一つの窓口ですべての相談ができるような体勢づくりの必要性を強調するとともに、「多重債務などのトラブルを防ぐために、子どものころから金銭教育をすることも必要だ」とも提言しました。

対人サービス援助者のスキルアップ講座（大阪）

当事業団主催

福祉の現場で、利用者とうまく関係がつかれないと悩んでいる人、もっとスムーズにコミュニケーションを取りたいと思っている人を対象にしたスキルアップ講座を2月7日、大阪府社会福祉会館で開き、障害者や高齢者の入所施設の職員、支援センターの職員ら25人が参加しました＝写真。



障害者の自立生活をサポートするメインストリーム協会副代表の玉木幸則さんが「本当の自立支援とは」、大阪府立大学准教授の三田優子さんが「対人サービス援助者としての基本的な姿勢」のテーマで話した後、5グループに分かれて実技に挑戦しました。実際に当事者へのインタビューを交えながら、どうすれば利用者からうまく話を引き出すことができるのかを学びました。気づいたことや感じたことを話し合うディスカッション、さらにまとめと発表を行いました。参加者は「今までは当事者の立場に立った、話の聴き方をしていなかった。明日からすぐにでも役立てたい」と話していました。

講演会「育みはぐくまれ」(大阪)

大阪府青少年活動財団、大阪少年補導協会、関西テレビ青少年育成事業団との共同主催

食育としつけに気を配りながら、有名タレントと花形アメフト選手の2人の息子を育てた、料理家の木村まさ子さんを講師に迎えて10月3日、大阪YMCA会館で開催しました。木村さんは、第1部では食事をする時の姿勢など、日常生活におけるマナーの大切さを説き、第2部の質問コーナーでは、司会の関純子・関西テレビアナウンサーと軽妙なやりとりを通して、会場を埋めた約300人のお父さん、お母さんたちに力強いエールを送っていました。

遺贈・遺言セミナー「老いじたく～あなたの財産を未来に」(東京)

当事業団主催

一般には、まだ馴染みの薄い“社会貢献としての遺贈”について、広く理解が深まることを目指し、「遺贈・遺言セミナー」を3月12日、朝日新聞東京本社・新館会議室で開催しました。講師は相続、遺言、成年後見制度などが専門の弁護士・中山二基子（ふきこ）さん（東京弁護士会所属、写真右）にお願いしました。



遺言がない場合のトラブルや遺言作成についての相談事例などを紹介しながら、中山さんは「老後を安心して生きるためにはどうしたら良いか」「成年後見制度をどのように使うか」について、話しました＝写真下。

財産の贈り先として公益法人を指定する遺贈については、「遺贈先の理解が必要」「不動産の遺贈は断られることがある」など、留意すべき点についての解説もありました。

終了後のアンケートでは、「たいへん役に立った」「わかりやすかった」という声が多数寄せられました。



医療と公衆衛生

第61回保健文化賞（東京）

第一生命保険相互会社主催。厚生労働省、当事業団など後援

保健衛生の向上や向上に寄与した研究または発見をした団体、個人に贈られる第61回「保健文化賞」の贈呈式が10月27日、東京都港区のホテルで行われました。

団体では、小学校を対象にした自殺防止の思春期保健対策「いのちの大切さ助産師出前講座」や母親の育児不安の軽減や虐待防止などに取り組んだ群馬県助産師会（鈴木せい子会長）、個人では結核とハンセン病の疫学・対策の研究に貢献、さらに発展途上国への技術協力で指導的役割を果たした東京都の森亨さんら10団体と個人5人に賞金（今回から団体各200万円、個人各100万円）と朝日新聞厚生文化事業団賞などが贈られました。

この賞は1949年に制定されて以来、民間の表彰事業として最も定評のあるものです。

小児がん街頭キャンペーン（名古屋）

がんの子どもを守る会東海支部主催。大同生命厚生事業団、当事業団後援

小児がんの早期発見を訴える街頭キャンペーンが9月6日、名古屋市中区の松坂屋本店北館前で開かれ、がんの子どもをもつ親や、がんで子どもを亡くした親らが街頭で早期発見を促すチラシを配布し一般市民の理解を求めました。

アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津）

当事業団主催

都会の中で育児に悩む母親たちのための数少ない民間の育児相談室で、地元にも溶け込んでいます。1957年に開設した近鉄百貨店阿倍野店では、大阪市立大学医学部附属病院の小児科医をはじめ、歯科医師や保育士たちが母親の相談にのっています。広い休憩コーナーもあり、親子の憩いの場としても賑わっています。4月と9月には親子参加のイベントを開き、絵本の読み聞かせやパネルシアター、歌遊びなどで楽しい時間を過ごしました。

74年から続く西武百貨店高槻店は毎週木曜日、小児科医が交代で相談にあたり、常連の母親もいます。2004年に開設した西武百貨店大津店は第1・第3日曜日に専門相談員が子育ての先輩の立場からアドバイスし、親しみやすいと好評です。

各相談室の利用者数は次の通り。

近鉄阿倍野店 434人（一回平均5人）、ミニ講演会 91人

西武高槻店	287人（一回平均6人）
西武大津店	47人（一回平均2人）

生活習慣病市民公開講座（北九州）

平成紫川会主催。北九州市、当事業団共催

地域住民の福祉の向上に寄与するため、最新の医療技術や健康情報を提供する「生活習慣病市民公開講座」を昨年に引き続いて開催しました。主催の財団法人平成紫川会は急性期疾患の治療を中心とした高度医療を提供し、同時に地域医療の質の向上を図るため公衆衛生活動を実施しています。

講座は4月の「睡眠時無呼吸症候群について」を皮切りに、2010年3月の「おくすりと上手につきあう方法」まで計6回。最新の医療情報に無料で接することができるため、延べ980人の市民が参加し、熱心に耳を傾けていました。

【講座の紹介】（講師はいずれも小倉記念病院所属）

- | | | |
|--------|-------------------------------------|---|
| 4月25日 | 「そのいびきは大丈夫?!～睡眠時無呼吸症候群と生活習慣病」 | 砂山 裕子・糖尿病看護認定看護師（アジア太平洋インポートマート） |
| 5月30日 | 「憂うつな気分とのつきあい方」 | 三木 浩司・精神科部長（北九州市立男女共同参画センター） |
| 6月27日 | 「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かできますか？」 | 中島 研・救急部長（アジア太平洋インポートマート） |
| 11月14日 | 「大切な人を乳がんから守りませんか?～乳がん!!早期発見・早期治療～」 | 田中 香・乳がん看護認定看護師（アジア太平洋インポートマート） |
| 1月23日 | 「狭心症と心筋梗塞の最新治療と予防」 | 延吉 正清・院長（北九州国際会議場） |
| 3月13日 | 「おくすりと上手につきあう方法」 | 増田 和久・薬剤部長
清水 誉志・薬剤師（アジア太平洋インポートマート） |

チャリティー事業

朝日チャリティー美術展（名古屋、大阪、東京）

朝日新聞社と共同主催

全国の美術家や各界著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を名古屋、大阪、東京の3会場で開催しました。

今年度も文化勲章受章者や重要無形文化財（人間国宝）の方を含む画家、工芸・彫塑家、書家、宗教家、茶道・華道家、各界の著名人ら延べ2700人の方々にご協力いただき、寄贈された作品は日本画、洋画、工芸、彫塑、書、色紙など約3300点にのぼりました。

●名古屋展

56回目を迎えた名古屋展は、2009年12月10日から12日まで名古屋市中区のスカイル丸栄で開催し、寄贈された約1000点を販売しました＝写真。

今年から入札形式を取り入れ、陶工芸、絵画など50点を入札で販売しました。入札コーナーは来場者の関心が高く、客足は途絶えることはありませんでした。作品をじっくり見ることができることも好評でした。

会場では混乱を避けるため、1日150枚の整理券を配りましたが、朝早くから整理券を手に入れようと多くの愛好家が並び、開場前からにぎわいました。



●大阪展

1926年（大正15年）、「名士、大家書画展覧即売会」で始まった大阪展は、12月23日から25日まで大阪市中央区のなんば高島屋で開催。約1100点を入札と即売で販売しました。

3日間を通して約4600人が来場し、長引く不況にもかかわらず、昨年を上回る売り上げがありました。

初日、ABC（朝日放送）のラジオ番組で、活気あふれる会場の様子が紹介され、またABCテレビのニュース取材が入ったこともプラスになり、会場は例年以上のにぎわいを見せました＝写真。



●東京展

東京展は85回を記念して、2010年3月5日から8日まで東京都中央区の松屋銀座で開催し、入札と即売で約1200点を販売しました。

7日には会場の特設コーナーで日本画家の石踊紘一さんをゲストに迎え、アートソムリエの山本冬彦さんのトークショーを開きました。山本さんは絵画などの美術品が身近にある暮らしの魅力を語りました=写真。



また、会場に当事業団の活動を紹介するパネルを展示し、社会福祉事業のための募金箱を設置しました。ご寄付をいただいた方には、日本画家の後藤純男さん、石踊紘一さん、洋画家の福岡通男さんの作品を印刷した85回記念絵はがきをお渡ししました。

(作品を寄贈していただいた方々のお名前は、53～63ページに掲載しました)

第59回メサイア演奏会（東京）

朝日新聞社と共同主催。東京藝術大学音楽学部協力

1951年から歌い継がれてきた「藝大メサイア」が2009年12月22日、東京・上野の東京文化会館大ホールで開かれました=写真。小泉ひろしさん指揮、藝大フィルハーモニアと学生ら約230人によるヘンデルのオラトリオ「メサイア」の全曲演奏は、2300人の来場者を魅了しました。



不況の影響からクラシックコンサートはチケットがなかなか売れないと言われていますが、「藝大メサイア」はチケットの売り上げも順調で、11月には完売しました。

「藝大メサイア」のソリストは、毎年9月に行われる学内オーディションにより選考されます。今回、ソリストに選ばれたのは、谷垣千沙さん（ソプラノ）、加藤のぞみさん（アルト）、市川浩平さん（テノール）、今井俊輔さん（バス）の4人です。

来場者の中には、毎年、金の卵たちの成長を楽しみにしているファンが多く、「年末は藝大メサイアで締めくくります」という50年来のファンも見受けられます。

ヘンデル作曲の「メサイア」は、キリストの生涯と復活、栄光を題材にしたオラトリオ（聖譚曲）で、「社会福祉の目的以外に演奏を認めない」というヘンデルの意思をくみ、現在も世界中でチャリティーコンサートとして演奏されることが多い曲です。

半世紀以上にわたり、藝大メサイアを継続することができたのは、社会貢献の一環としてご協力、出演していただいている東京藝術大学音楽学部の教員、学生のみなさんの力によるものです。

また、1997年からは音楽学部だけでなく、美術学部の先生方のご協力も得て、ポスターやプログラムを制作しています。今年はデザイン科教授で美術学部長の池田政治さんのご協力をいただきました。東京藝術大学ならびに音楽学部、美術学部をはじめ、大学関係者の皆様のご尽力に、報告の場をお借りして謝辞を申し上げます。

親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）

当事業団主催

10周年記念の「親子で楽しむクリスマスコンサート」を12月23日、東京都千代田区の有楽町朝日ホールで開催しました。午後1時からと午後5時30分からの2回の上演で、家族連れら約1200人がクリスマス気分を楽しみました。

中川ひろたかさん＝写真上、新沢としひこさん、ケロポンズをはじめ、豪華な出演者が、小学校の音楽の教科書にも採用された「世界中のこどもたちが」などの名曲を音楽劇の形で披露しました＝写真下。

心にしみる歌の数々に加え、「D1 だじゃれグランプリ」の会長でもある中川さんら、個性あふれる出演者による舞台に、会場も一体となって盛り上がりました。

このコンサートは歳末恒例の催しとして定着しています。チケットは毎年、発売開始から約1週間で売り切れており、今回も完売しました。出演者は次の通り（敬称略）。

中川ひろたか（シンガー・ソング
絵本ライター）、新沢としひこ（シン
ガー・ソングライター）、平田明子（ケ
ロポンズ、シンガー・ソングライタ
ー）、増田裕子（ケロポンズ、シンガ
ー・ソングライター）、大友剛（ミュ
ージシャン、マジシャン）、佐藤克彦
（ギター）ほか



第55回朝日推薦演奏会（大阪）

当事業団主催

最終回となった第55回朝日推薦演奏会を12月5日、大阪市北区のザ・シンフォニーホールで開きました。

関西を中心に活躍するベテラン音楽家の推薦を受けた新進・中堅の演奏者たちが、あこがれの
大舞台に挑戦する演奏会で、世界的に活躍するプロの演奏家も多く生まれています。世界的な指
揮者カラヤンがタクトを振り、名ピアニスト・ブーニンの演奏が流れた会場で、今回は中学生や
高校生、大学生を含めた19人が、レベルの高い、熱気あふれる演奏を披露しました。

半世紀を超える歴史を刻んでこられたのも、推薦委員の方々の尽力のおかげです。

【出演者】

ピアノ＝大澤佑季、青木啓樹、志賀俊亮、峠舞衣子、石井麻貴、飯盛康史、内藤雪子、田中麻
衣子、松田花子

声楽＝梶原綾華、藤原優美、畑友実子、西上亜月子、高見智佳子

フルート＝大久保祐奈、荒木美帆、樋口藍

マリンバ＝森本夕貴、島田菜摘（敬称略、出演順）

【推薦委員】

赤松二郎、池田洋子、井上圭子、岡田晴美、片岡みどり（故人）、金澤和孝、児嶋一江、酒井睦雄、
芝令子、瀬野光子、曾根亮一、田原祥一郎、辻久子、土田晴子、永井和子、服部久美子、深美裕
子、宮本慶子、山上明美（敬称略、50音順）

第51回各派合同三曲演奏会（大阪）

当事業団主催



各派合同三曲演奏会を11月23日、大阪府中央区のNHK大阪ホールで開催しました＝写真。
箏、三絃、尺八の第一線で活躍中の各派の協力があり、当日は16社中、約550人が出演しま
した。出演社中と曲目は次の通り（敬称略、出演順）。

須山知行・中島警子社中「君が代変奏曲」▽箏曲栄琴会「巖上の松」▽博簡民恵社中「春の七草」
▽新都山流大阪府支部「本曲 瑞光」▽大阪正絃社「あやとり」▽酒井典彦社中「協奏曲『磔』」
▽中里絃恵社中「日本の曲（荒城の月抄・さくら舞曲）」▽遊琴会「縁」▽箏曲和光会・琴古流玉

川社「明日香慕情」▽菊武潔社中「星と花」▽八千代会「紅の魔方陣」▽都山流尺八樂会大阪府支部「寒砧」▽中扇喜琇鳳社中「秋の言葉」▽中村双葉社中「加賀の月」▽雅声会「千の風になって」▽菊田歌雄社中「箏・十七絃による小組曲」

第57回洋舞合同祭（尼崎）

当事業団主催

洋舞合同祭を12月25日から27日まで、兵庫県尼崎市のアルカニックホールで開催し、関西洋舞界を代表する12団体17チームが出演しました=写真。今回は長年会場として利用してきたフェスティバルホール（大阪市北区）の一時閉館に伴い、会場をアルカニックホールに移しました。一時は、洋舞合同祭の継続も危ぶまれましたが、「続けたい」という出演者の熱意と協力で、開催にこぎつけることができました。今回もフェスティバルホールのスタッフが運営のため駆けつけてくれました。



出演団体は次の通り（出演順）。

- 【25日】江川バレエスクール、法村友井バレエ学校、同ジュニアバレエ団、大阪バレエアカデミー、同バレエカンパニー
- 【26日】スズキ・バレエアート・スタジオ、宝塚コドモアテネ、波多野澄子バレエ研究所、江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所
- 【27日】西野バレエ団北村眞子バレエスタジオ、田村弘子バレエ研究所、本田道子バレエ団、岡本バレエ団、MRB松田敏子リラクゼーションバレエ

協賛能（大阪）

能楽協会大阪支部と共同主催

協賛能を12月23日、大阪市中央区の大槻能楽堂で開催しました。「歳末助け合い」と銘打った能舞台で、関西で活躍する観世、宝生、金剛、金春の四流と狂言の大蔵流、和泉流が出演しました。午前と午後の2回公演でしたが、朝早くから能楽堂の前には開演待ちの列ができ、関心の高さがうかがえました。後日、収益金の57万6520円の寄付を受けました。

第56回各流合同茶会（大阪）

当事業団主催

京阪神の著名な各流の宗匠の協力で行われる「各流合同茶会」を、大阪美術倶楽部（大阪市中
央区今橋）で3月13日、14日に開きました＝写真。来場者は2日間で延べ4000人。自流
の席だけでなく、他流の席でも
作法を学ぶこともあって、茶
道愛好家で終日にぎわいました。



懸釜担当の宗匠は次の通り
（〔 〕内は流派、敬称略・順不同）。

【13日】〔表千家〕木村雅基
〔裏千家〕杉本宗
璋、松井宗順〔武
者小路千家〕木津
宗詮〔遠州流茶道〕筍新会〔習軒流〕坂田柏苑

【14日】〔表千家〕森泰輔〔裏千家〕杉本宗鴻〔武者小路千家〕佐伯江南斎〔藪内流〕藪内流
大阪支部五葉会〔古石州流〕本庄扇宗〔花月菴流〕花月菴流大阪支部
〈協賛宗匠〉〔表千家〕靱よし子、表千家同門会大阪支部〔裏千家〕八木宗新、矢野宗菁、中尾宗勢
〔武者小路千家〕芳野宗春、三宅守真〔藪内流〕随竹会〔宗徧流〕佐々木宗節
〔庸軒流〕柿本梅軒〔松尾流〕上西宗慶〔松風清社〕泉谷光峰〔一茶菴流〕佃一輝

第55回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋）

当事業団主催、名古屋美術倶楽部協賛

歳末朝日チャリティー茶会を地元8流派の
家元、社中の協力で、12月13日に名古屋
市中区の名古屋美術倶楽部で開催しました＝
写真。

第一席（残月の間）と第二席（葵の間）の
茶室で、各4流派が交代でお手前を披露しま
した。気軽な雰囲気でき、1枚の茶券で、2席分
のお茶の湯を楽しむことができ、和服姿の女
性ら約千人が堪能しました。



〈協力宗匠〉（敬称略）

第一席 〔表千家〕=谷口宗清、柴田昭和、棚橋昭雄
〔志野流〕=蜂谷宗玄、綱島章、福島和志

〔宗徧流〕=寺尾宗康

〔尾州久田流〕=下村瑞晃

第二席 [遠州流]=丸山宗翠

[裏千家]=庄司宗文、桑原宗翠

[松尾流]=松尾宗典、尾関宗般、村瀬玄之

[久田流]=加藤久岳

第47回チャリティー大茶会（北九州）

茶道裏千家淡交会北九州支部主催、当事業団など後援

第47回チャリティー大茶会が9月5日、6日に北九州市小倉北区の小倉井筒屋で開かれ、2日間で約1300人が訪れました。本席と立礼席の2席が用意され、来場者は茶道裏千家淡交会北九州支部の会員がたてたお茶を楽しみ、茶わんや掛け軸の説明を受けて、真剣に見入っていました。秋をテーマにしたお菓子が楽しめるため、子どもたちにも好評でした。後日、同支部の幹事長から収益金66万6542円が寄せられました。

杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）

財団法人杵勝会主催。当事業団後援

古典長唄演奏家の集まり「杵勝会」（八代目杵屋勝三郎会長）が主宰する演奏会が12月20日、東京都千代田区の有楽町朝日ホールで開かれました。演奏会には5月に八代目を襲名した家元の杵屋勝三郎さんをはじめ、100人を超える会員が出演。「勸進帳」「時雨西行」「三曲糸の調」「廓丹前」など長唄14曲を演奏しました。収益は当事業団へ寄託されました。

第46回宇井あきらとレ・ザマン・ド・ラ・シャンソンコンサート（東京）

宇井あきらとレ・ザマン・ド・ラ・シャンソン主催。当事業団後援

12月4日、ヤクルトホール（東京都港区東新橋）で、シャンソン演奏グループ「レ・ザマン・ド・ラ・シャンソン」（シャンソンの恋人たち）によるコンサートが開かれました。メンバーの田村順子さんらが、往年のシャンソンのヒット曲を歌い、会場につめかけたファンを魅了しました。

「レ・ザマン・ド・ラ・シャンソン」は作曲家で歌手の宇井あきらさんが主宰していたグループですが、宇井さんはコンサート3カ月前の9月1日に88歳で亡くなりました。

宇井さんは生前、菅原洋一さんの歌で日本レコード大賞を受賞した「今日でお別れ」などを作曲、日本シャンソン協会理事も務めました。チャリティー活動にも尽力し、ご自身の構成による当事業団後援の歳末シャンソンコンサートは45回を数えました。これまでのご厚志に感謝するとともに、ご冥福をお祈りいたします。

彩季会チャリティーバザー（東京）

彩季会主催。当事業団後援

皮革工芸の指導、研究を行っている彩季会（東京都杉並区、八尾緑代表）で12月4日、5日、恒例のチャリティーバザーが開かれました。会場では、会員の手作りの小物やアクセサリー、バッグなど多数の工芸品が展示即売され、来場者でにぎわいました。今年も売り上げの一部が当事業団へ寄付されました。

各地のウォーキング大会で募金活動（小金井、飯能、堺、東松山）

日本ウォーキング協会、朝日新聞社など主催。当事業団後援

日本ウォーキング協会と朝日新聞社などが主催する各地のウォーキング大会で、当事業団の事業の紹介や朝日福祉寄金などの募金活動を行いました。

各地の募金額は次の通り。

- ・第14回東京国際スリーデーマーチ（5月1日～3日、東京都小金井市） 3万9754円
- ・第7回飯能新緑ツーデーマーチ（5月23日～24日、埼玉県飯能市） 3万1468円
- ・第4回堺国際ツーデーマーチ（5月30日～31日、大阪府堺市） 3901円
- ・第32回日本スリーデーマーチ（11月1日～3日、埼玉県東松山市） 14万 544円

朝日新聞 2009年4月15日 朝刊 33ページ 東京本社

朝日新聞社のお知らせ

朝日福祉寄金いつでも受け付けます

寄付金は、子ども、障害者、高齢者らのために朝日新聞厚生文化事業団が行う社会福祉事業の原資となります。ご協力ください。金額は問いません。個人、法人ともに税法上の優遇措置があります。寄付者名・団体名は朝日新聞の地域面に掲載します（千円以上、匿名扱い可）。

◇主な寄付方法 【郵便振替】001380・1・9166
 加入者名「朝日新聞厚生文化事業団（通信欄に「寄付」と明記。領収書不要の場合も付記を。差し支えなければ寄付の動機も）【銀行振込】三井住友銀行新橋支店 普通 303668（銀行振込込みの場合）

合は事業団へ電話連絡をお願いします。【現金書留】〒104-8011（所在地不要）朝日新聞厚生文化事業団まで【現金受付】朝日新聞東京本社内の事業団窓口（平日午前10時～午後6時）、各地の朝日新聞総局・支局で「インターネット」同事業団ホームページから電子マネー「ちよコム」募金

◇相続税が非課税となる遺贈・遺言のご相談も含め、問い合わせは同事業団（03・555407446、FAX03・555651643、<http://www.ssalh-welfare.or.jp/>）
 社会福祉法人
 朝日新聞厚生文化事業団

その他の事業

西部朝日福祉助成金（九州、沖縄、山口）
 当事業団主催

09年度の「西部朝日福祉助成金」は、地域の福祉向上に取り組んでいる小規模福祉作業所やボランティアグループなどの活動を支援するため、夏季に九州、山口の12団体に452万円を、冬季には福岡県内の3団体に45万円を贈りました。毎年、年末・年始に実施している「朝日ふれあい募金」を財源にしています（寄付をいただいた方のお名前は、64～71ページに掲載）。

夏季の助成金の申込団体募集は2月24日付の朝日新聞朝刊の「お知らせ」でスタートし、4月10日の締め切りまでに87団体から応募がありました。2次にわたる社内選考と各県の社会福祉協議会や朝日新聞西部本社の総局・支局の協力で現地調査を実施し、12団体を選考しました。6月20日付朝日新聞朝刊特集面で、その活動を紹介しました。贈呈式は福岡県分を6月26日に西部本社で、その他は各県庁所在地の朝日新聞総局などで行いました。

贈呈の12団体と主な購入機器は次の通りです。

【山口】NPOつばさ ワークショップ白壁（柳井市・業務用ガスオーブン）▽NPO被害者支援センター ハートラインやまぐち（山口市・支援員養成講座）▽朗読ボランティア みちしおの会（下関市・パソコン入力用インターフェイス、ソフト）

【福岡】NPOよかよかネットワーク（大牟田市・ノートパソコン）▽福岡県朗読奉仕者の会（福岡市・パソコン、マイク）▽NPO花の花（福岡市・自動車）▽NPO北九州市視覚障害者自立推進協会 あいず（北九州市・日商PC検定受験対策講座）

【長崎】社会福祉法人山陰会 山陰ホーム（南島原市・食品乾燥機）

【熊本】オリーブの会（合志市・テーブルとイス）

【大分】NPO輝くピアホーム（国東市・自動車）

【宮崎】NPOすまいる（延岡市・大型オーブン）

【鹿児島】社会福祉法人ワークプラザひまわりの家（伊佐市・流し台、調理台など）

春季は地域で、社会福祉活動を継続的に続けている団体を支援するための助成で、運営費として活用できます。福岡いのちの電話（福岡市）▽北九州いのちの電話（北九州市）▽福岡県交通遺児を支える会北九州総支部（同）の計3団体に贈られ、2010年3月17日、朝日新聞西部本社で贈呈式を行いました。



贈呈式を報じる朝日新聞福岡版の紙面

サモア・スマトラ沖地震救援募金、ハイチ地震救援募金

サモア諸島とインドネシア・スマトラ島沖で9月30日（日本時間）に相次いで起きた地震の被災者救援のため、当事業団は10月6日から11月3日まで、朝日新聞社と協力して募金の呼びかけを行いました。

朝日新聞の読者の皆様をはじめ、全国各地から寄せられた募金は、サモア地震151件、87万4082円、スマトラ沖地震156件、212万3691円の計299万7773円に上りました。

救援金は日本赤十字社と、現地で救援活動にあたったNGO団体「国境なき医師団日本」に贈りました。

また、2010年1月13日（日本時間）に中米ハイチで起きた地震でも、当事業団は18日から募金活動を始め、3月末までの約2カ月半の間に全国から1544件、総額1917万7439円が寄せられました。

集まった募金は、日本赤十字社と「国境なき医師団日本」「国連世界食糧計画WFP協会」「ワールド・ビジョン・ジャパン」の4団体に贈り、被災者救援と復興支援に役立てていただきました。

皆様の温かいご協力に厚くお礼申し上げます。



写真は、㊤津波に襲われ、何も残っていない被災地＝10月1日、サモア・ラロヌマー
 ㊦地震で倒壊したホテルでの復旧作業＝10月2日、インドネシア・パダン
 ㊧がれきの山と格闘する人たちは1月15日、ハイチ・ポルトープランス

（いずれも朝日新聞社撮影）

主な後援・協賛・協力事業一覧

日程	催事名		主催者名	会場名
本 部 (東 京)				
3/28~8/30	第3回全東京ろう社会人軟式野球TDリーグ大会	後援	全東京ろう社会人軟式野球連盟	北区新荒川大橋球場ほか
4/12	第2回ウェルビーイングクラブ	後援	同クラブ実行委員会	千葉県立房総のむら
4/16~17	横浜開港150周年記念・国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」	後援	同合唱祭実行委員会	横浜みなとみらいホール
5/4~5/6	第38回日本車椅子バスケットボール選手権大会	後援	日本車椅子バスケットボール連盟ほか	東京体育館
5/17	日本リウマチ友の会第49回全国大会	後援	日本リウマチ友の会	ホテル・センチュリー静岡
5/17	障害者医療問題全国ネットワーク・第8回シンポジウム	後援	障害者医療問題全国ネットワーク	国立オリンピック記念青少年センター
5/29~30、7/22~24	第58回関東聾学校陸上競技大会、同バレーボール大会	後援	関東聾学校体育連盟	武蔵野市立陸上競技場、ぐんまアリーナ
6/13~14	第25回DP I 日本会議全国集会 in 函館	後援	DP I 日本会議ほか	函館市総合センター
6/15	「若さの栄養学」春の講演会	後援	若さの栄養学協会	きゅりあん(東京・品川区)
7/21~26	第24回療育音楽指導者養成研修会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会ほか	東京・新宿区、小平市ほか
8/9	第7回手話による中学生の意見発表会	後援	日本生命労働組合	日本生命丸の内ビル
8/18~20	第60回全日本少年野球大会	後援	厚生労働省、全日本少年野球連盟、全国児童自立支援施設協議会ほか	ハードオフ・エコスタジアム新潟
8/23	夏の交通遺児家庭を励ます会	後援	交通遺児等を支援する会	見晴らし園(山梨県笛吹市)
8/29	かがり火の中の和太鼓コンサートⅡ	後援	OHANAプロジェクト	梁田寺(東京・町田市)
9/12	小児高次脳機能障害支援セミナー	後援	千葉県千葉リハビリテーションセンター	めぐろパーシモンホール(東京)
9/15	第46回東京都老人クラブ芸能大会	後援	東京都老人クラブ連合会	東京厚生年金会館大ホール
9/18	第38回朗読録音奉仕者感謝の集い	後援	鉄道弘済会ほか	弘済会館(東京・千代田区)
9/18	日本点字図書館・秋のチャリティー映画会	後援	日本点字図書館	なかのZERO(東京)
9/19~20	きょうされん第31回全国大会 in さいたま	後援	きょうされん	大宮ソニックシティ
9/26	第13回電動車椅子サッカー関東大会	後援	関東ブロック電動車椅子サッカー協会	府中市立総合体育館
9/26	第8回ピボ・ユニバーサル駅伝大会	後援	コミュニケーション・スクエア21	国立霞ヶ丘競技場ほか
9/27~28	第35回みんなの音楽会、認知症高齢者講演会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会ほか	浴風会大ホール(東京・杉並区)

日程	催事名		主催者名	会場名
9/29~10/1	第36回国際福祉機器展 H. C. R. 2009	協賛	保健福祉広報協会ほか	東京ビッグサイト
10/4	第22回全国障害者将棋大会	後援	同大会実行委員会	北とびあ(東京・八王子市)
10/10	第7回本間一夫記念・日本点字図書館チャリティコンサート	後援	日本点字図書館	東京文化会館小ホール
10/9~11	第34回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	東広島アクアスタジアムほか
10/29~30	第2回全国精神保健福祉家族大会ーみんなネット長崎大会	後援	全国精神保健福祉会連合会	長崎ブリックホール
10/31	第41回愛隣会チャリティバザー	後援	愛隣会	愛隣会(東京・目黒区)
10/31	正秋バンドチャリティーコンサート「愛のサウンドフェスティバル」	後援	東京光の家	日野市民会館大ホール
10/31~11/1	ルイ・ブライユ生誕200年、石川倉次生誕150年記念点字ビッグイベント	後援	日本盲人福祉委員会、日本点字委員会	戸山サンライズ(東京・新宿区)
11/1	第6回チャリティーバザー	後援	交通遺児等を支援する会	エステック情報ビル前広場(西新宿)
11/1~3	サイトワールド2009	後援	日本盲人福祉委員会	すみだ産業会館
11/13~15	第9回全国障害者芸術・文化祭しずおか大会	後援	厚生労働省、静岡県、静岡市	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」
11/14	第6回本間一夫文化賞	後援	日本点字図書館	ビッグボックス(東京・高田馬場)
11/15	第56回東京都聴覚障害者大会	後援	東京都聴覚障害者連盟	きゅりあん(東京・品川区)
11/20	平成21年度全国社会福祉大会	協賛	厚生労働省、全国社会福祉協議会ほか	日比谷公会堂
11/21	第30回全国歯科保健大会	後援	厚生労働省ほか	高知県立県民文化ホール
11/25	第21回国民の健康会議	協賛	全国公私病院連盟	ヤクルトホール(東京・港区)
11/30~12/4	弘済学園「わたしたちが創る展」	後援	鉄道弘済会ほか	JR東京駅丸の内北口地下動輪の広場
12/12~13	こどもが望む社会的養護を考える大会	後援	里親子支援のアン基金プロジェクト	日本女子大目白キャンパス
12/17~25	自立援助ホーム「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋
1/19	第58回東京都社会福祉大会	協賛	東京都、都社会福祉協議会ほか	東京都庁大会議場
2/11	第61回保健文化賞受賞報告会・第26回思春期を考えるつどい	後援	香川県、香川県看護協会	香川県看護協会看護研修センター
2/11	第32回関東ろう者大会	後援	関東ろう連盟	なかのZERO大ホール
2/24~3/2	夢編み倶楽部新作展示会	後援	夢編み倶楽部	日本橋三越本店
3/3	第55回「耳の日」記念行事	後援	日本耳鼻咽喉科学会	有楽町朝日スクエア
3/6	第39回耳の日記念文化祭	後援	東京都聴覚障害者連盟	東京都障害者福祉会館ほか

日程	催事名		主催者名	会場名
3/6	メンタルヘルスの集い(第24回日本精神保健会議)	後援	日本精神衛生会	有楽町朝日ホール
大 阪 事 務 所				
4/1~5/31	大同生命厚生事業団助成事業(地域保健福祉研究など3件)	後援	大同生命厚生事業団	
4/4~10/18	第19回自然観察インストラクター養成講座	後援	大阪自然環境保全協会	服部緑地ほか
4/7~5/18	家庭看護実習教室	後援	大同生命厚生事業団	大同生命大阪本社
4/16~18	総合福祉展「バリアフリー2009」	後援	大阪府社会福祉協議会ほか	インテックス大阪
4/17	鎌田實講演会「今という時代をどう生きぬくか」	後援	大阪YMCA	大阪YMCA会館
4/18	第27回日本ライトハウスチャリティコンサート	後援	日本ライトハウス	ザ・シンフォニーホール(大阪市北区)
4/18~10年2/4	第45期電話相談ボランティア養成講座	後援	関西いのちの電話	博愛社(大阪市淀川区)
5/9~10年2/20	ソーシャルワーカー養成課程	後援	京都国際社会福祉協力会	京都国際社会福祉センター
5/28	「若さの栄養学」春の講演会(※新型インフルエンザの影響で中止)	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館
5/30~31	第4回堺国際ツデーマーチ	後援	堺市、日本ウォーキング協会、朝日新聞社ほか	堺市大仙公園
5/31	第16回共生・共走リレーマラソン	後援	同リレーマラソン実行委員会	鶴見緑地
6/6	第16回マインドエアロビクス	後援	マインドエアロビクス実行委員会	大阪市長居障害者スポーツセンター
6/11~12	平成21年度近畿救護施設研究協議会	後援	近畿救護施設協議会	リーガロイヤルホテル堺
6/14	自閉症支援のための公開講座「一人立ちした我が子：就労・生活・余暇」	後援	NPO法人BON	大阪府社会福祉会館
6/21	第8回全国LD親の会公開フォーラム	後援	全国LD親の会	ドーンセンター(大阪市中央区)
7/1~9/30	2009体験COMVO-夏のボランティア活動	後援	大阪市社会福祉協議会、大阪市	大阪市内ほか
7/4	福祉の就職総合フェア2009 in Osaka	後援	大阪府、大阪府社会福祉協議会ほか	インテックス大阪2号館
7/7~9	第59回近畿児童自立支援施設野球大会	後援	滋賀県、近畿児童自立支援施設協議会	滋賀県甲賀市民スタジアムほか
7/12	共に生きるコンサート13(※新型インフルエンザの影響で日程・会場を変更)	後援	同コンサート実行委員会	大阪府立稲スポーツセンター
7/18~26	2009年度子供の城・障害児教育夏期連続講座	後援	子供の城協会	公文教育会館(大阪市淀川区)
7/20~25	第30回子どもたちの讃歌展	後援	大阪特別支援教育諸学校造形教育研究会ほか	大阪府立現代美術センター
7/26	第17回障害者の明日を語り合うつどい	後援	障害者の生活と権利を守る兵庫県民集会実行委員会	あすてっぷKOBÉ
7/26	とさぼりサマーセミナー2009	後援	土佐堀 YMCA	土佐堀 YMCA 会館

日程	催事名		主催者名	会場名
7/28~29	第30回高齢者介護セミナー	後援	大阪府医師会	大阪府医師会看護専門学校
8/7~12	第26回土と水と緑の学校	後援	アジア協会アジア友の会	和歌山県新宮市高田公民館ほか
8/18~19	第58回近畿児童福祉施設スポーツ大会	後援	近畿児童養護施設協議会、同大会実行委員会	サンガタウン(京都府城陽市)
8/22	第15回すいた共生・平和のつどい	後援	同つどい実行委員会ほか	吹田市文化会館メイシアター
8/23~25	自閉症児のための「のびのびキャンプ」	後援	大阪府青少年活動財団ほか	大阪府立総合青少年野外活動センター
8/28~30	第20回吃音親子サマーキャンプ	後援	同キャンプ実行委員会、日本吃音臨床研究会	滋賀県立荒神山少年自然の家
8/29~30	第15回社会福祉研究交流集会	後援	同集会実行委員会、総合社会福祉研究所	大阪市立大学杉本キャンパスほか
9/5~6	短期集中看護実習教室	後援	大同生命厚生事業団	大同生命大阪本社
9/13	第50回大阪知的障がい者福祉大会	後援	大阪手をつなぐ育成会ほか	大阪国際交流センター
9/18	「若さの栄養学」秋の講演会	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館
10/1~4	こころに平和をカレンダー原画展	後援	精神障害と社会を考える啓発の会	萬福寺(大阪市西区)
10/3	大阪市福祉就職・進学フェア	後援	同フェア実行委員会	OMMビル(大阪市中央区)
10/17~18	第28回スポーツフェスタ2009大阪	後援	大阪知的障がい者スポーツ協会	大阪長居競技場ほか
10/25	ファインエリアフェスティバル2009	後援	同実行委員会、大阪府立障がい者交流促進センターほか	大阪府立障がい者交流促進センター
10/25	第37回全大阪ろうあ者文化祭	後援	大阪聴力障害者協会、大阪市聴言障害者協会	大阪市長居障害者スポーツセンター
10/30~1/3	ナイスハートバザール	後援	大阪府授産事業振興センター	イオン日根野ショッピングセンター(泉佐野市)
11/7~8	第13回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会	後援	大阪聴力障害者福祉事業協会ほか	サンスクエア堺
11/7~10年1/16	新聞音訳ボランティア養成講座	後援	日本福祉放送	日本福祉放送曾根崎研修所
11/8	第33回福祉まつり	後援	同まつり実行委員会	関目学園(大阪市城東区)と周辺
11/8	第45回肢体不自由児者を支援するチャリティーバザー	後援	大阪市肢体不自由児者父母の会連合会	買物公園(八尾市)
11/14	第45回肢体不自由児・者を支援するチャリティーバザー	後援	大阪市肢体不自由児者父母の会連合会	京橋駅前広場
11/17	第10回大阪救護施設合同文化事業	後援	同事業運営委員会	太閤園(大阪市都島区)
11/19~20	平成21年度医療社会事業従事者講習会	後援	大阪医療ソーシャルワーカー協会	大阪国際交流センター
11/23	大阪YMCA第15回チャリティーラン2009	後援	大阪YMCA、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区ほか	大阪城公園
11/25	平成21年度大阪府社会福祉大会	後援	大阪府社会福祉協議会	大阪国際交流センター

日程	催事名		主催者名	会場名
11/26~ 12/2	第11回チャリティーニット展	後援	ニットファッションSUMIRE	近鉄百貨店上本町店
12/2~5	第16回ノーマライゼーション絵画・創作展	後援	同展実行委員会	大阪市立総合生涯学習センター
12/3~5	第33回チャリティー画展	後援	日曜画家協会	マイシティ・オアシス (大阪駅前第2ビル)
12/13	創立40周年記念・若駒となかま達のコンサート第10弾	後援	民族芸能アンサンブル若駒	ドーンセンター
1/13~19	第27回ふれあいの街チャリティーバザール	後援	大阪府社会福祉協議会成人施設部会・セルフ部会	高島屋堺店
1/17	第30回みんなでつくるコンサート	後援	同コンサート実行委員会	西宮市プレラホール
1/22~24	ナイスハートバザール	後援	大阪府	イオン大日ショッピングセンター(守口市)
1/24	講演会「認知症の正しい理解とその対応」	後援	大阪認知症研究会	千里ライフサイエンスセンター
1/28~2/2	第29回障害のある子どもに学ぶ図工展	後援	大阪市小学校教育研究会特別支援教育部、同特別支援教育担任者会	大阪市長居障害者スポーツセンター
1/30~31	TEACCHコラボレーションセミナー	後援	TEACCHプログラム研究会	京都染色会館シルクホール
2/1	第48回衛生教育大阪大会・第52回公衆衛生大阪大会	後援	大阪府ほか	大阪府病院年金会館
2/2~3/11	家庭看護実習教室	後援	大同生命厚生事業団	大同生命大阪本社
2/6	福祉の就職フェア WINTER in OSAKA	後援	大阪府、全国社会福祉協議会、大阪府社会福祉協議会ほか	大阪市立北区民センターほか2カ所
2/11~19	障がい者アート事業「障がい者の世界」	後援	大阪府地域福祉推進財団ほか	国際障害者交流センター(堺市)
2/20	素のままフェスタ2010	後援	同フェスタ実行委員会	豊中市立アクア文化ホール
2/20	第20回春をよぶみんなのコンサート	後援	同コンサート実行委員会	守口市民会館
2/21	アルコール薬物依存症予防啓発事業・劇団「ひっぽ」自主公演 VOL. 9	後援	劇団「ひっぽ」	神戸市立葺合文化センター
2/21	誰もが安心して医療が受けられるように 人に優しい豊かな医療を考える府民のつどい	後援	NPO 大阪難病連、大阪府ほか	エル・おおさか(大阪府中央区)
2/24~27	第25回肢体不自由児者の作品展	後援	大阪府肢体不自由者協会ほか	ドーンセンター
3/12	第59回施設従事者激励会	後援	大阪民間社会福祉事業従事者共済会	サンケイホール(大阪府北区)
3/20	第22回こんにちはまつり	後援	同まつり実行委員会	神戸市立生田文化会館
3/27~29	おたふく会設立20周年記念「マクケンジー・ソープ絵画展」	後援	大阪LD親の会「おたふく会」	大阪保健医療大学
西 部 事 務 所				
通年	西日本カラオケ連合のチャリティー発表会(3回)	後援	西日本カラオケ連合	北九州市内の生涯学習センターほか
5/26~31	第44回西部伝統工芸展	協力	日本工芸会、朝日新聞社ほか	ホテル日航福岡

日程	催事名		主催者名	会場名
5/30	第27回北九州精神障害者家族会連合会総会	後援	北九州精神障害者家族会連合会	ウェルとばた
5/31	第47回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市障害者スポーツ協会ほか	本城陸上競技場など
7/18~21	第30回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘(福岡県筑前町)
7/24・26	全日本ろうあ連盟創立60周年記念映画「ゆずり葉」北九州上映会	後援	北九州市聴覚障害者協会ほか	北九州芸術劇場中ホールほか
7/25~26	九州地区里親研修大会	後援	全国里親会ほか	福岡国際会議場
8/11~13	第54回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
10/10~11	第33回全国脊髄損傷者連合会九州ブロック会議沖縄大会	後援	全国脊髄損傷者連合会九州ブロック連絡協議会ほか	パシフィックホテル沖縄
11/8	第20回全国ふうせんバレーボール大会	後援	ふうせんバレーボール振興委員会	北九州市立総合体育館
11/9	ネットヨタ北九州CUP 日刊スポーツチャリティーゴルフ大会	後援	日刊スポーツ新聞西部本社	九州ゴルフ倶楽部八幡コース
11/10~12/10	第57回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県内主要都市
12/6	第12回北九州市手話フェスティバル	後援	北九州市聴覚障害者協会ほか	北九州芸術劇場大ホール
1/5~17	新春チャリティー絵画入札会	後援	ギャラリーそめきち	北九州市旧門司三井倶楽部
1/10~11	第22回BOSSチャリティーテニストーナメント	後援	国際スポーツ振興	九州国際テニスクラブ
1/29	第28回肢体不自由児・者の美術展	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	小倉井筒屋新館パステルホール
名古屋事務所				
4月~10月	第61回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会ほか	愛知県庁本庁舎ほか
4/12	第29回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	扶桑町総合体育館
4/26	第20回ナゴヤチャリティマラソンフェスティバル	後援	名城オールランナーズクラブほか	庄内緑地公園
4/26~5/24	平成21年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、県社会福祉協議会	星が丘ボウル(名古屋市)ほか
4/29	シンポジウム「障害のある子とない子が共に生きること」	後援	NPO 法人アサヒキャンプ名古屋	なごやボランティアNPOセンター
5/22~24	第12回国際福祉健康産業展〜ウェルフェア2009	後援	名古屋国際見本市委員会ほか	ポートメッセなごや
6/21	第26回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	東別院会館ホール(名古屋市)
7/5	第16回重症心身障害児・者講演会	後援	医療・福祉・保健・教育のネットワーク名古屋	朝日ホール(名古屋市)
7/12	草間吉夫講演会・VOXRAYライブ	後援	なごやかサポートみらい	名古屋市北文化小劇場
8/12~17	第26回岐阜心理リハビリテーション療育キャンプ	後援	岐阜県肢体不自由児(者)父母の会連合会ほか	長良川スポーツプラザ

日程	催事名		主催者名	会場名
8/19~22	第24回三重県心理リハビリテーション 連合キャンプ	後援	三重県心理リハビリテーション 連合会	鈴鹿青少年センター
8/22~27	第37回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	愛知県青年の家
9/10~ 12/10	第57回手足の不自由な子どもを育て る運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県青い鳥医療福祉 センター
10/4	第33回09愛のフェスティバル	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成 会福祉会館ひろば
10/4	生き生き長寿フェア2009「はつらつ 健康プラザ」	後援	愛知県、県社会福祉協議会	あいち健康の森公園
10/11	第37回医療講演会	共催	三重県重症心身障害児(者)を守る 会	三重県教育文化会館
10/22	第57回愛知県社会福祉大会	協賛	愛知県、名古屋市、県社会福祉協 議会ほか	愛知県体育館
11/1	第54回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市公会堂大ホー ル
11/7~8	第15回地域療育講演会	後援	社会福祉法人美谷会ほか	岐阜県県民文化ホール 未来会館
12/6	第49回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合 会	瀬戸市文化センター
12/13	チャリティーマジックショー	後援	愛知県聴覚障害者協会ほか	愛知県産業労働センタ ー
2/28	第32回名古屋市手話祭・第8回聴覚障 害者の集い	後援	名古屋市聴覚障害者協議会	名古屋市女性会館
2/7・14	平成21年度知的障害者支援者養成講 座	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成 会福祉会館ほか
3/7	第28回耳の日記念・聴覚障害者と県民 の集い	後援	愛知県聴覚障害者協会ほか	小牧市市民会館

チャリティー美術展に出展いただいた皆様

(50音順、敬称は略させていただきました)

【日本画】

(あ行)

相嶋崇人	相羽ユキ	赤井春水	赤沢嘉則	赤羽根一司	秋本幸一	浅野忠	足利満雄
小豆澤禮	小豆島良耳	安達英志郎	阿部一雅	天野耕造	荒井孝	新井陽子	荒木孤人
有賀明文	安斎義郎	安藤徹	飯田小夜子	池田薙仔	池田夏乎	石踊紘一	石踊達哉
石崎昭三	石田幸誠	石塚青篁	石永皓一郎	伊勢巧	市川保道	市野鷹生	市野晴美
市橋豊美	伊藤紫虹	伊藤タカ子	伊藤獨	伊藤はるみ	伊藤正男	伊東美巳	稲熊万栄
犬飼白龍	井上耐子	井上北斗	猪熊佳子	今井珠泉	今井武久	磐城佳子	岩崎巴人
岩崎美代子	岩田三枝	岩波昭彦	岩本富雄	岩本峯齊	上村淳之	上村典子	鶴飼千佐子
臼井治	内田広己	内田政美	烏頭尾精	梅岡徳子	梅原幸雄	浦上義昭	江川敦志
江川照美	江口佳寿子	蝦名芳枝	遠藤隆稔	王荻地	大河内久男	大嶋英子	大竹紫水
太田小晴	大塚千聰	大月紅石	大野廣子	大野幹彦	大森運夫	大矢時保	大矢十四彦
大矢紀	大山鎮	岡田郁子	岡信孝	岡本彩湖	小川国重起	押元一敏	落合初美
小山硬	折井宏光	折式田生子					

(か行)

榎下稔	春日あけみ	片山宏	加知満	勝田幸男	加藤恵	加藤哲男	加藤美恵子
加藤美代三	兼島聖司	鎌田紀子	上岡奈苗	嘉門町子	河合重政	川北一雄	川越篁治
川崎マリ子	川島陸郎	河津胖子	川辺隆啓	河村沙希	河本正	神林久子	菊川三織子
菊池治子	岸野圭作	北原雅眉瑠	北原龍太郎	北村一二三	金原保則	楠暁子	工藤甲人
久芳道信	久保吉郎	久保嶺爾	倉田立美	倉田富美	倉地千枝子	小泉智英	郷倉和子
神門やす子	香野ルミ子	小島光径	後藤順一	後藤紳也	後藤純男	後藤芳世	粉川洛木
小林済	小林裕子	小林六博	小谷津雅美				

(さ行)

齋藤陽	斎藤和	斎藤宗	坂元洋介	佐久間顕一	櫻井基晴	佐々木経二	佐々木裕而
笹本正明	佐治満澄	佐藤晨	佐藤継雄	佐藤啓美	佐藤叔	里見穎伸	猿橋幸治
沢戸和子	澤山輝彦	重岡良子	品川成明	篠崎美保子	澁澤卿	清水史郎	清水達三
清水信行	下川辰彦	下川立夏	下田義寛	霜鳥忍	白井久義	新山拓	杉谷彩光
杉山博子	杉山律夫	鈴木彰	鈴木竹柏	鈴木夏江	鈴木至夫	鈴木美津子	関根将雄
千住博	染谷聡之	楚里清					

(た行)

田井久江	高岡秀造	高木白雲	高木元子	高越甚	高橋新三郎	高畑郁子	瀧沢巨森
田口愛子	武田州左	田島奈須美	多治見早苗	田代邦子	辰巳寛	田中重造	田中竣
田中瑞芳	田中基美	谷口蕙香	田村仁美	千村俊二	月居和子	月村恵紅	津田勉
土長けい	土屋雅裕	筒井耀也美	角田範子	寺田正	樋田洋子	道家珍彦	東条光顯
徳川和美	戸田みどり	殿南直也	富田俊成	鳥山武弘			

(な行)

中岡友子	中川脩	長崎莫人	中島潔	中島千波	永田耕治	永田実子	中谷温男
中野貴雄	中野嘉之	仲林敏次	中村壽	中村宗弘	那波多目功一		新美葉子

仁木寿美子 西澤知江子 西野陽一 西村勝廣 西村光人 西山英子 西脇繁華 沼本三郎
野原真澄

(は行)

長谷川郁子 服部倫子 服部誠子 浜上俊和 濱田昇児 濱田松陽 浜田泰介 林孝彦
林田啓江 林芳辰 林正明 林美枝子 原武子 原田巧 稗田一穂 日置宏輔
日景博 日比野光雄 平岩洋彦 平尾秀明 平田春潮 平松礼二 廣岡通正 福王寺一彦
福本達雄 藤井康夫 藤谷和春 藤本久美 藤原志保 藤原祐寛 二川和之 太尾芳生
紅山幸水 堀川えい子 堀越保二 本間正英

(ま行)

前田暉 牧野良美 馬驍 榊田靖夫 馬瀬里子 間瀬静江 町田泰宣 松生歩
松尾敏男 松尾浩子 松倉茂比古 松崎良太 松下勝正 松下宣廉 松下園江 松永明雄
松原秀伸 松室加世子 松本進 松本哲男 松本実 真野尚文 丸尾久子 三浦絵衣子
三上俊樹 三沢英伍 水江東穹 水島長治 (故人) 水谷勝子 水野收 水野本光
三谷青子 皆川千恵子 三宅和光 宮本脩子 宮本和胡 三輪晃久 村井玉峰 村井葉子
村田晴彦 村田林藏 森島扶美子 森英明 森脇正人

(や行)

矢澤貞子 安川眞慈 柳績 山口溪華 山口義明 山崎弘芳 山平貞信 山本恭子
山本静香 山本真一 山本真也 油野由美子 横山萬里 吉岡三樹子 吉田多最 吉村年代
依田有立 四田淳三

(わ行)

和田洗珀 和田利造 渡辺章雄 渡邊英子 渡邊幸子 渡辺富栄 渡邊美喜

【洋画】

(あ行)

相川昭二 (故人) 饗庭昌貞 青江健二 秋田谷愛子 阿久津正志 明吉美智子 浅井清貴
浅井欣哉 浅井義弘 麻田博子 安食慎太郎 芦田芳生 遊馬賢一 東弘孝 足立一夫
安達茂人 安達康夫 阿部信行 阿部晴美 安部英夫 天津恵 天野吉則 雨森陽子
荒井孝 新井康須雄 有田守成 安藤公一 家田聖子 家田非左子 五百住乙人 猪飼淳
池田くみ子 池田洋子 恵俊彦 井阪仁 石井敏之 石川幸子 石川世始子 石阪春生
石田聖子 石根三千代 石野紀美子 石野容三 石橋武夫 石原ミチオ 泉地靖雄 泉富美
磯部徹男 板垣千鶴子 板倉美智子 井田繁 伊丹重男 市川光雄 市古肅亮 市村一
井手典子 出村幸代 伊藤郁 伊藤和義 伊藤清和 伊藤順子 伊藤純子 伊藤昭蔵
伊藤隆 伊藤高義 伊藤直 伊藤秀男 伊東博子 伊藤弘之 伊藤文男 伊藤万几子
井藤雅博 伊藤康夫 稲垣考二 稲垣龍雄 井上憲一 井上慎介 井上利哉 猪口公子
井口由多可 伊庭新太郎 今永安雄 今村市久 今村昭寛 入江観 岩井美津子 岩井康頼
岩切岑泰 岩崎雄造 岩瀬郁夫 岩田明生 岩田視司 岩田知幸 岩谷康世
岩原須佐子 (故人) 岩淵晃三 岩本かずえ イ・ワヤン・シーラ 上木伸之 植木美代子
上嶋スミコ 上島秀明 上尚司 植田彰子 上田ますみ 植月正紀 上野憲一 上野千代子
上橋薫 白井恵之輔 碓井たか子 薄久保友司 宇高龍 宇田喜久子 打田幸男 宇野孝之
宇野義行 生方純一 梅村徹 浦川彰子 栄永大治良 江上寿夫 江添栄一郎 榎本多恵子
江本繪門 江本佳寿子 遠藤晴夫 王前一馬 大石つね子 大江孝 大岡立 大柿了一
大川浩市 大口邦子 大熊峻 大島幸夫 大谷哲生 大津英敏 大附晋 大西生余子
大西弘之 大野孝泰 大橋光夫 大淵繁樹 大森良三 大山富夫 岡貞徳 岡田俊一
岡田全良 岡千秋 岡宏 岡村敦子 岡本正尹 岡本尚子 岡本竜之 小川清子

小川幸紅	小川周二	雄川ちづ子	小川博史	沖田幸和	沖田廉平	沖中勝則	奥田喜一
奥谷博	奥村聰臣	尾崎功	尾崎重春	尾崎ゆき子	納健	小澤一正	尾澤達也
小沢眞弓	尾島守	小田島えい子		織田廣喜	織田義郎	越智節昇	越智雄二
乙丸哲延	小野仁良	小野知久	小原稔	尾松直	面矢元子	折本美祢子	

(か行)

加古千恵子	笠井誠一	梶浦寿布	梶田達二	春日井正	粕谷良雄	片山昭弘	片山弘明
加藤助八	加藤千太郎	加藤大博	加藤トオル	加藤信子	加藤日出男	加藤正明	加藤吉春
門脇正弘	金井順子	金子貞子	壁下孝	上所幹彦	加覧裕子	川井一義	
河井達海 (故人)		川口輝夫	河西昭治	河野宗之蒸	川原比瑛子	川辺忠孝	川雅吉
河村卍世子	河村雅文	木浦寛治	菊池郁子	菊地洋二	喜澤のり子	岸田淳平	岸野昭
北口嘉亮	木谷利江	北野隆祥	北原悌二郎	北見隆	北村美枝	北山茂	北山達哉
橋田政明	木寺淳二	鬼頭恭子	絹谷幸二	木下實之	樹林雅生	木原寿夫	木村信之
木村正	木村正志	木脇康一	日下直樹	日下部寛	草壁隆	草野直己	久世瑠璃
久保田政子	久保輝秋	倉田和夫	倉田政子	蔵野美佐子	倉本勝博	栗田政勝	栗山直子
黒川彰夫	黒木郁朝	黒木邦彦	黒木トシ子	黒木宏	黒沢信男	黒田秀方	黒田富紀子
黒田勝	黒柳弘行	桑島春彦	小池かよ	小泉正彦	小泉元生	小泉守邦	河野穰而
河本和子	郡桂子	古賀猛	小阪謙造	小阪弘子	五島まさを	小杉小二郎	小瀬垣宏郎
後藤昭夫	小早川協右	小林昭子	小林千枝	小林八重子	小林裕児	小柳晟	小柳幸代
小柳吉次	小山オサム	小山成	近藤昭彦	近藤壽一郎	権藤信隆	近藤幸	

(さ行)

斎藤吾朗	斎藤孝弘	斎藤千川予	斎藤秀夫	斎藤光子	斎藤由比	佐伯浩	酒井英利
坂口寛夫	坂谷和夫	坂中功一郎	坂本直	坂本よしこ	櫻井孝美	桜井陽彦	佐光亜紀子
佐々木馨	佐崎紘一	佐々木貞夫	佐々木友幸	佐々謙二	佐竹稔	佐藤一成	佐藤勝信
佐藤カツヤ	佐藤潤	佐藤忠彦	佐藤富美子	佐藤義光	佐野千津子	佐野比呂志	佐伯喜三郎
猿渡士郎	澤辺茂男	塩川佑子	志賀源吾	四方道夫	鹿野富子	七里和子	篠崎和子
芝田キク	芝田耕	柴田美智子	柴田祐司	柴山静徳	芝芳雄	嶋谷卓之	嶋谷美鈴
島田安雄	嶋津俊則	嶋貫佑一	清水亟悞	清水鉄彌	清水佳子	下園由莉	下田悌三郎
庄司栄吉	城康夫	白川順子	白坂介明	白鳥三郎	白山扶士子	新宅光男	水藤澄子
菅沼正則	菅原洸人	杉浦温子	杉浦鐸夫	杉浦充	杉田明維子	杉村美文	杉本澄男
杉山重雄	杉山英子	鈴江章郎	鈴木貞子	鈴木隆俊	鈴木田俊二	鈴木奈緒	鈴木延雄
鈴木福男	鈴木マサハル		鈴木睦美	鷺見康夫	瀬尾一嘉	関口貴美	瀬下ゆり子
銭谷誠	世利徹郎	園山幹生	祖父江弘幸				

(た行)

大門正忠	高木政彦	高沢正利	高田洋右	高橋一正	高橋一善	高羽清司	高松政子
高森明	多賀谷無人	高山晃	田川知子	滝沢直次	滝滋	瀧田依子	宅田忠正
田口正子	田口貴久	竹内靖夫	竹内雍子	竹生節男	竹下功	竹中稔量	竹原邦樹
竹村和夫	竹村忠一郎	田坂ゆたか	田澤茂	多田晴義	たちようこ	辰将成	館内美智子
楯岡和子	田中敏夫	田中ひとえ	田中仁士	田中宗雄	田中良	田辺新吾	谷川泰宏
谷口和正	谷田穎郎	谷本暁雄	谷本ためひろ		田伏勉	玉井久美子	
タマカワ千恵		玉木英治	玉谷明美	玉谷優	田村正幸	田屋幸男	知念正文
千原稔	中條健史	塚田清	塚原ヨリ子	塚本英一	塚本吉廣	津川純子	辻司
津田勝利	都築頭	堤慶	椿野浩二	壺井進二	弦田英太郎	鶴房健蔵	鶴見雅夫
鶴山好一	出口修	寺井徹	寺沢順子	寺西進三郎	土井邦晃	遠山源吾	戸狩公久
外川攻	徳永考衝	戸高明義	外処旭	富澤尚美	富田利雄	友成晴雄	

(な行)

長井功	永井忠雄	長井宏之	長澤すみ江	長澤卓重	中嶋国博	中島大三	中島千恵
中島裕司	中嶋美瑛子	永澄幸子	中谷健三	長富博子	中西文彦	中西良招	中根寛
中野治朗	長濱伶子	中村郁夫	中村英	中村一雄	中村一人	中村啓子	中村晃子
中村輝行	中村博 (故人)		中村光幸	中村百合	仲安銀蔵	中山忠彦	中吉照雄
那須野栄	七原正勝	生井京子	檜崎重視	成瀬光男	難波忍	西井義晃	西嶋俊親
西田藤三郎	西塚芳子	西野一郎	西埜幸治郎	西村純子	西村壽郎	西山徹	新田勝
新田由紀子	抜井亀良	塗師祥一郎	沼尾雅代	根萩斎門	野久保由美子		野田富三郎
野村亜紀子	野村京子	乃村豊和					

(は行)

萩原和子	萩原栄文	橋本忠夫	長谷岩友	長谷川和子	長谷川仵	長谷川正子	長谷謙三
浜口美和	濱田進	濱田弘康	濱哲郎	濱本恵一	早川義孝	早川勝	林敬二
林孝三	林茂樹	原省象	原田たかし	原田嘉徳	半澤満	日賀野兼一	樋口貞男
平井誠一	平井智子	平岩郁郎	平尾倫子	平沢文一	平野昭子	廣岡清武	広瀬範
広田和典	深川和久	深津静男	福岡幸子	福岡通男	福島一二三	福田兼松	福田陽子
福永紀子	福原満江	福満よさ美	藤井和亮	藤井多鶴子	藤井勉	藤崎恒頼	藤浪成喜
藤村サツ子	藤本正男	藤森悠二	藤原慶子	布施久美子	舟越利和	ブライアン・ウィリアムズ	
古野紀征	別府忠雄	帆足ゆり	保ヶ渕静彦	星功	保科浩一	細川進	細谷久美子
堀井聰	堀江優	堀尾一郎	堀太郎 (故人)		堀博喜	本多しず子	

(ま行)

前川雅幸	前島隆宇	楨利光	牧野美代子	卷山昌宏	正木茂	柁木高	真砂貞二
マサルW	松井茂樹	松井三希央	松浦正博	松浦安弘	松尾隆司	松樹路人	松沢茂雄
松田貴美子	松田魏	松永諄子	松永知久	松原政祐	松原美代子	松村和紀	松村光秀
松室重親	松本年晃	松本遥江	マツモトヨーコ		間中敏子	馬淵鈴美	三浦勝治
三浦敏和	三浦勉	三木義尚	三塩清巳	水野伊津子	水野照子	水野一	水野尚
溝渕泰史	三谷祐幸	三柘明子	宮川洋一	宮木薫	三宅四郎	宮崎進	宮崎浩行
宮下実	宮下由夫	宮田翁輔	宮平勉	宮本裕之	宮山博司	三好準治	三輪吉三郎
向井梅逸	村井成好	村井洋子	村岡顕美	村瀬京平	村田伊佐夫	村山容子	村山陽
元永定正	森勇	森康次	森茂子	森下ヒロ子	森田眞	森田幸宏	森長武雄
森文男	森本計一	森本有一					

(や行)

八木時子	安井啓二	安井正子	安居素子	安田隆亮	安富信也	安福葉子	弥富節子
柳瀬俊泰	矢野喜久男	矢萩武三志	八尋隆徳	矢部聡	山尾才	山岸用之介	山口剛生
山口幸平	山口静治	山口隆夫	山口美佐子	山崎昭男	山下恒子	山下毅	山下弘喜
山下幸夫	山田嘉一郎	山田正二	山田精一	山田典男	山田博司	山田嘉彦	山寺重子
山中馨	山根須磨子	山之内弘	山羽斌士	山本亜稀	やまもと悦子		山本虎雄
山本文彦	横井三郎	横内襄	横山申生	横山了平	吉井爽子	吉岡耕二	吉城弘
吉田清光	吉田淳一	吉田敏男	吉野清	吉松八重樹	吉村美令由	吉本満雄	米倉正弘
米田整弘	米満大九郎	余村展					

(わ行)

脇幹夫	わたせせいぞう		渡辺明	渡辺一夫	渡辺卓美	渡辺てるお	渡辺とめ
渡辺正夫	渡邊妙法	渡辺良一	渡部ひでき	和田行雄	渡紀美子		

【工芸】

(あ行)

相羽鴻一郎	青木九仁博	青木拳	栗生屋東洸	青山鉄郎	赤毛敏男	秋野宏和	浅蔵五十吉
浅原千代治	東正之	東好昭	与勇輝	安達章	安達雅一	新敏嗣	天野達夫
雨宮弥太郎	荒川達	荒木広	嵐一夫	有松進	安藤和久	安藤光一	安藤敏彦
安藤則義	安藤博允	井尾建二	池上栄一	池島玲子	池田珪子	石井視子	石川満
石崎光四郎	石野泰造	石橋裕史	石山静男	伊豆蔵幸治	泉公士郎	井関和代	伊勢崎淳
伊勢崎創	磯部晃	市川博一	市川正美	市野悦夫	市野元祥	市野茂良	市野信水
市野哲次	市野年成	市野英一	市野雅彦	市野正大	市野勝	市野元和	糸井康博
伊藤敦子	伊藤勝彦	伊藤憲一	伊藤美秀	伊藤優	伊東祐一	伊藤良典	伊藤渡
稲垣太津男	稲垣幹夫	稲嶺盛吉	稲荷作	井上萬二	井上康徳	今泉今右衛門	
今井紀昭	今井政之	今西方哉	今村博	伊村徳子	井村まゆみ	岩井香楠子	岩瀬健一
岩本孝志	岩本哲也	上田菊明	植竹敏	上田寿方	鶴飼真知子	後田和孝	宇田川溪山
宇田川玄翁 (故人)		内堀敏房	内村幹雄	内村由紀	内山政義	浦上光弘	浦林章雄
漆畑登	永楽善五郎	江口勝美	江口康成	大石督幸	大泉讚	大上巧	大河内泰弘
大川正洋	大倉貞義	大倉真汝	大塩玉泉 (故人)		大塩昭山	大塩正義	大嶋久興
大須賀選	大角幸枝	太田和明	太田公典	大谷昌祐	太田貢	大槻昌子	大野晃幹
大野耕太郎	大野昭和斎	大野誠二	大橋聡子	大橋裕	大樋勘兵衛	大樋朔芳	
大樋長左衛門		大樋年雄	大平和正	大平孝昭	大村禎一	岡澤伸之	岡田崇人
緒方修一	岡田親彦	岡田春海	岡田裕	岡本篤	岡本信也	岡本白水	
岡本碧山 (故人)		小川健次郎	小川長楽	小川二楽	小川文齋	荻内善晴	荻原毅久
荻原守彦	奥田浩堂	奥村公規	奥村繁豊	奥山峰石	小倉健	小椋範彦	桶谷洋
尾西楽斎	小畑裕司						

(か行)

加賀瑞山	角谷英明	各見壽峯	各見飛出記	加古勝己	鹿児島成恵	鹿島和生	梶原茂正
片岡宏幹	片山雅博	勝尾青龍洞	勝尾龍彦	勝田文博	勝田保子	桂寛	加藤永司
加藤錦雄	加藤清之	加藤錦三	加藤溪山	加藤敬也	加藤孝造	加藤幸兵衛	加藤晃楽
加藤作助	加藤惇	加藤春鼎	加藤嵩	加藤尊也	加藤忠雄	加藤天平	加藤唐三郎
加藤土史路	加藤土代久	加藤仁香	加藤允	加藤正也	加藤美土里	加藤康景	加藤佑
加藤陽児	加藤嘉明	加藤廉平	金森伸郎	可児一広	金子信彦	金子認	金重晃介
金重利右衛門		兼田佳炎	加納義光	樺澤健治	鎌田幸二	神谷英介	亀井幸一
亀井勝	加守田太郎	川井明子	川井明美	河井喜代子	河合竹彦	河井透	河井敏孝
川合正樹	河上恭一郎	川上清美	川上力三	川喜田敦	川北浩彦	川北良造	河口純一
川口保規	川崎鳳嶽	川崎靖英	河内國平	川手敏雄	川端近左	川端文男	川淵直樹
神崎継春	神崎正英	神戸保明	神戸義憲	菊池昭	菊池挙子	菊地弘	岸本久泉
北大路泰嗣	北岡秀雄	北口夢石	北出星光	北出不二雄	北野勝彦	北村堅治	北村昭斎
北村英昭	吉向孝造 (九世松月)		吉向琮斎 (八世松月)		吉向蕃斎 (七世松月)		衣川俊仁
木村玉舟	木村宏造	木村素静	木村展之	木村宜正	木村将人	木村盛和	木村盛伸
木村盛康	木村好博	喜代志松治	清水六兵衛	吉良博	久野勝生	久保修	栗林一夫
黒岩卓實	黒木国昭	黒田正玄	黒田暢	黒田儀男	黒野丈治	桑原みさ雄	桑山圭洋
元田五山	鯉江敏弘	鯉江廣	小出甚吉	厚東建信	厚東孝明	神山清子	神山直彦
神山易久	國領東斎	小嶋克山	小嶋太郎	小島弘	小谷多美子	小峠葛芳	小西陶蔵
小西朋子	小西博雄	小橋川清次	小林一雄	小林一富美	小林潤呼	小林東洋	小林浩
小林文一	小林貢	小林勇超	小林理恵	小松克丸	小南吉彦	小室幸雄	小森邦衛
小谷内和央	小柳種圃	小山喜平	小山貴由	児山由美子	近藤功次	近藤しゅうじ	

近藤精宏 近藤潤 今野春雄

(さ行)

斎木勲	齋藤修	斎藤鷹郎	斎藤則行	斎藤裕子	西念秋生	酒井甲夫	阪井舜
酒井田柿右衛門		坂井韶聖	坂井教人	酒井博司	酒井芳樹	榊原啓司	榊原勇一
坂田甚内	坂手春美	坂本俊人	笹岡基三	佐々木厚	佐々木省庵	佐々木二郎	佐々木強
佐々木雅浩	佐々木悠紀子		笹山芳人	佐藤和彦	佐藤走波	佐藤苔助	佐藤喬
佐藤巧	佐藤二三子	佐藤泰子	佐藤亮	佐土浩一	佐野寛	寒川栖豊	鮫島豊
皿谷緋佐子	澤清嗣	沢田嘉予子	沢田重雄	沢田豊山	篠田武雄	柴岡信義	柴田厚志
柴田育彦	柴田好明	芝山吉邦	島岡桂	島田敏男	島田緋陶志	島田文雄	清水潮
清水潤	清水酔月	清水千代市	清水俊彦	志村ふくみ	庄村健	白武初芳	白幡明
城間栄順	新庄貞嗣	神農巖	末次観節	杉浦文泰	杉江善次	杉本貞光	鈴木藏
鈴木勝詞	鈴木環	鈴木健司	鈴木五郎	鈴木三成	鈴木茂至	鈴木爽司	鈴木貴詞
薄田浩司	鈴木量	鈴木富雄	鈴木直喜	鈴木美貴子	砂田正博	諏訪蘇山	十河慶子
曾根芳之							

(た行)

平良敏子	高明	高岡久美子	高権成	高取忍	高取八仙	高橋彰	高橋佐門
高橋春斎	高橋新六	高橋政男	高橋光三	高橋楽斎	高橋和三郎	高原邦彦	高原卓史
高見勝代	滝川幸志	滝口和男	瀧口喜兵衛	瀧下幸悦	瀧田項一	武石和春	竹内眞三郎
竹田忠生	武田敏男	竹之内彬裕	炬口佳枝	武村豊徳	竹村繁男	田島明	多田光宏
伊達陽一	田中忍	田中美奈子	田中悠子	田中良昭	田中源彦	谷川省三	谷川菁山
谷川仁	谷口玄	谷口幸二	谷口祥八 (故人)		谷口正典	谷清右エ門	谷野明夫
田沼春二	田原陶兵衛	玉村松月	玉村登陽	田山精一	力石俊二	中条照子	塚原三千勝
塚本司郎	塚本治彦	塚本満	辻英芳	辻勘之	辻常陸	土田育弘	土谷道仙
土田友湖	土屋典康	筒井修	筒井辰也	都築青峰	堤圭一	恒岡光興	坪島土平
出口清廣	出口直美	手塚央	寺井恭	寺池静人	寺田みのる	寺本守	照井一玄
天坊昌彦	徳田明美	徳田順子	徳田八十吉 (故人)		豊住和廣	豊場惺也	

(な行)

永井素懂	長江哲男	中尾彰秀	中尾英純	中尾恭純	中川進	中里重利	
中里太郎右衛門		中里壽	中島翁助	中嶋喬	中島卓	中島保美	中島悠紀夫
永田穂波	中田呂尚	中塚佐一	中根秀介	中野一政	中村啓子	長野恵之輔	中野陶痴
中野亘	中村眞一	中村清六	中村雅明	中村實	中村豊	並木恒延	成良仁
名和章	難波好陽	難波誠治	新野素子	新美吉昭	二貝清一	西浦武	西悦子
西岡良弘	西尾茂	西尾瑞舟	西川勝	西川實	西田真也	西村源治	
西村松逸 (優)		西村直城	西山宗元	根崎隆博	納富晋	野坂和左	野坂康起
野崎賀代子	野嶋峰男	野田東山	延原勝志				

(は行)

萩井一丘	萩井一司	迫二郎	橋爪靖雄	羽柴良一	橋本昇三	蓮善隆	長谷川文陽
長谷川豊	秦蔵六	波多野善蔵	波多野英生	羽田登	麦畑耕生	服部峻昇	花田和彦
花輪滋實	羽石修二	馬場九州夫	馬場弘吉	羽原一陽	浜田英峰	早川収	林恭助
林慶六	林寧彦	林亮次	速水史朗	原清	原田拾六	原田隆峰	
ピーター・ハーモン		稗田寿炎	東田茂正	東直人	樋口大桂	樋口雅之	久田邦男
樋上千哲	日野田崇	日比野正明	平沢登	平野祐一	廣澤益次郎	広沢葉子	広瀬さちよ
広田優美子	深石美穂	深川巖	福井由美	福郷徹	福田喜重	福田参平	藤井敬之
藤岡周平	藤田潤	藤田良平	藤塚松星	藤村州二	藤原和	藤原敬介	藤原謹
藤原均	藤原史暁	藤原楽山	冬柴文廣	古瀬堯三 (八代)		古田好孝	古谷徹

古家喜義 (ま行)	帆足まおり	星野亨斉	細見華岳	堀俊郎	堀野証嗣	本郷大田子	本江敏彦
前田泰昭	前端春斉	前史雄	正宗千春	味舌隆司	眞清水藏六	増田昌弘	松井康陽
松尾潤	松崎健	松嶋弘	松平順彦	松林正人	松村拓夫	松本為佐視	松本勝哉
松本佐一	マツモトタカシ		松本達弥	松本正雄	松本良夫	丸田延親	丸田宣政
三浦珠鈴	三木表悦	水野敬子	水野古麦	水野静仙	水野鈺一	水野澤三	水野教雄
水野真澄	溝上藻風	三田村有純	美藤康夫	皆川隆	宮川香雲	宮川香齋	宮川弘尚
宮木敬子	宮田豊	宮田亮平	宮地生成	宮地陶博	宮本直樹	美和隆治	椋原佳俊
向山文也	武藤信吾	夢童由里子	村井一郎	村上東市	村瀬玄之	村瀬寛	村田肇一
室瀬和美	室町勝廣	毛利百合子	モーガン・ルイス		百田暁生	森一蔵	森伊呂久
森一洋	森勝資	森克徳	森川賢道	森里秀夫	森下育郎	森準一	森大雅
森田芳伯	森陶岳	森陶山	森村竹芳	森本英助	森泰司	森脇文直	
(や行)							
安田道雄	矢内齊	柳橋修二	矢部篤郎	山内厚可	山内一生	山口堅造	山口重信
山口宏夢	山崎昭	山崎豊	山路和夫	山城建司	山田和	山田和俊	山田耕作
山田孝藏	山田進二	山田勢児	山田正博	山田みどり	山田義明	山田義孝	山近剛
山出勝治	山出守二	大和努	大和保男	大和祐二	大和吉孝	大和義昌	山中辰次
山本出	山本修	山本象成	山本眞輔	山本教行	山本秀吉	山本雄一	山本竜一
弓戸好孝	湯村京子	横石臥牛	横山直樹	横山尚人	吉賀将夫	吉川修身	吉川千香子
吉川博治	吉川正道	吉川水城	吉川幸寿	吉田きみ子	吉田隆	吉田美統	吉田幸央
吉田喜彦	好本宗峯	吉本正	米田万太郎				
(ら行)							
樂吉左衛門							
(わ行)							
若尾経	若尾利貞	若尾誠	脇田宗孝	脇本定三	和田桐山	渡辺朝子	渡辺勝竹斎
渡辺聡	渡辺松華 (礼而)		渡辺琢哉	和田一人			
【版画】							
(あ行)							
鬚嘔	相田一夫	秋元幸茂	有田暁子	安東菜々	井川鉞之介	池上壮豊	池間英治
井堂雅夫	井上勝江	浦田周社	尾崎淳子	尾崎斎晃	尾山章	園城寺建治	
(か行)							
河内成幸	川西祐三郎	木嶋ちさ加	木田安彦	木村茂	木村秀樹	清田雄司	日下賢二
日下里美	國安珣子	熊谷吾良	黒木良典	古賀章	小崎侃		
(さ行)							
サイトウ良	佐久間嘉明	桜井貞夫	塩田みはる	史煌	志野和男	白木俊之	杉山元次
鈴木廣	須田敏夫	世古剛					
(た行)							
高部多恵子	高柳裕	瀧秀水	田中喜一	田中良平	地井紅雲	茶畑和也	辻憲
角田元美	鶴岡さゆり	富田文雄	富張広司				
(な行)							
なかのよういち		中林忠良	中山正	西貝和子	二村裕子	野田哲也	乗兼広人

- (は行)
- 長谷川忠廣 長谷川安信 馬場重臣 浜田浄 浜本幸男 原三佳恵 平井弘之 藤田慶次
- 二見彰一 船坂芳助 星野美智子 堀内幸豊 堀江良一
- (ま行)
- 前田政晴 増田陽一 松田昭八 松本旻 宮田三郎 宮田昌則 森岡完介 森島勇
- (や行)
- 安井寿磨子 山本桂右 山本光生 矢柳剛 横山皓一 吉池弘安 吉田正樹 代情房子
- 米倉泰民
- (わ行)
- 渡会純价

29 13版 **2009年(平成21年)12月11日** 金曜日 第4頁 朝日新聞

思いやりの泉

23~25日 大阪・なんば高島屋

工芸家

木部 大平 木部 大平 木部 大平

洋画家

朝日チャリティー美術展

日本画家

朝日チャリティー美術展





版画家

朝日チャリティー美術展

著名人

朝日チャリティー美術展

書家

朝日チャリティー美術展



作家

朝日チャリティー美術展

昨年の朝日チャリティー美術展では、総額556万円の売り上げがありました。この収益を社会福祉事業に役立てました。ありがとうございます。

朝日チャリティー美術展大阪展の特集紙面

【書】

(あ行)

秋田素鳳	浅井機山	綾村捷子	新井光風	飯高和子	池田桂鳳	石飛博光	石本法子
泉雪華	稲垣菘圃	江口大象	榎倉香邨	大石三世子	大河内暁水	大河内仙嶽	太田義久
岡美知子	小川東洲	尾崎邑鵬	恩地春洋				

(か行)

檜本桑牛	北村秋香	栗原蘆水	黒田賢一	黒野清宇	小島寿	五代梨舟	後藤秀園
後藤汀鶯	小伏竹村	小山素洞					

(さ行)

坂本柳波	座馬井邨	杉岡華邨	鈴木春朝				
------	------	------	------	--	--	--	--

(た行)

高木聖鶴	田口尹基子	竹中青琥	田中光穂	田中蘆雪	種村山童	鼓芳石	
------	-------	------	------	------	------	-----	--

(な行)

中川裕皓	中島宗皓	中野南風	中林落風	中村秀峰	西迫翠峰		
------	------	------	------	------	------	--	--

(は行)

半田一真	東山一郎	秀島踏波	藤岡都逕	藤野北辰	星弘道	甫田鷄川	堀場凶南
------	------	------	------	------	-----	------	------

(ま行)

真神巍堂	牧野鳳仙	増永広春	水嶋山耀	宮崎葵光	村上俄山		
------	------	------	------	------	------	--	--

(や行)

横山登士子							
-------	--	--	--	--	--	--	--

(わ行)

渡邊笙鶴							
------	--	--	--	--	--	--	--

【著名人】

(あ行)

藍弥生	赤江瀑	網代智等	有馬頼底	石田隆	市田ひろみ	稲畑汀子	井山裕太
植田豊一	上野道善	上村貞郎	江上泰山	江口方康	榎木孝明	大野玄妙	岡田圭介
奥田みえこ	小澤一雄	小沢昭一					

(か行)

片岡省念	片山治之	桂三枝	加藤一二三	金子兜太	川津祐介	河村立司	岸徹心
喜田川昌之	木俣達彦	木村徳人	工藤直子	河野太通	児玉清	小林太玄	小林隆彰
小堀光詮	小山幸容						

(さ行)

さいとう・たかを		酒井雄哉	坂田藤十郎	狭川宗玄	佐野史郎	三遊亭圓歌	三遊亭円楽
三遊亭金馬	ジェームス三木		下村瑞晃	笑福亭仁鶴	新川和江	千玄室	千宗左
千宗室	千宗守						

(た行)

高田明浦	高田良信	多川俊映	田中恭一	谷川浩司	ちばてつや	趙治勲	辻和雲
常盤勝範							

(な行)

永井ひろし	中原誠	中村梅之助	野々村玄龍				
-------	-----	-------	-------	--	--	--	--

(は行)

長谷川大眞	蜂谷宗玄	羽生善治	久田宗也	日野西光尊	フィフィ	藤子不二雄 [Ⓐ]	
古川薫	堀江湊子	堀内宗心					

ご寄付をいただいた皆様

2009年度に全国の皆様から朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた寄付は、総額1億3857万1110円にのびました。朝日新聞読者の方をはじめ、定期的にご送金いただく方、企業やグループ、学校での募金活動の収益をお届けいただく方、香典返しや遺贈など、いろいろな形で温かい志をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。本事業報告書で紹介する多くの福祉事業に大切にに使わせていただいております。なお、09年度は朝日新聞の紙面で呼びかけ、12月と1月に寄せられた、ご寄付をすべて「ふれあい募金」の名称で掲載しております（従来の「朝日福祉募金」も含まれています）。

ご寄付いただいた皆様は、次の通りです（敬称略、順不同）。

【一般寄付】

- ▼宮城県：蚊の涙二世志願者
- ▼岩手県：阿部千秋
- ▼山形県：山形県朝日会会長・三ヶ山忠義
- ▼茨城県：（有）高久食品代表取締役・渡邊均
- ▼栃木県：匿名
- ▼埼玉県：第7回飯能新緑ツーデーマーチ会場募金、遠藤靖夫、河内利雄、県立越ヶ谷高校生徒会、東海林英二、西武台高校保護者会・後援会、定年・T、東松山ライオンズクラブ会長・間山登喜雄、匿名4件
- ▼千葉県：（株）朝日カルチャーセンター千葉、池田守、大谷昌弘、今裕之・久子、白濱雄三、長谷川信男、富士美術協会第27回FAA展チャリティー展、キョショー、松戸いずみ幼稚園父母の会、松戸いずみ幼稚園、楽天地天然温泉法典の湯、匿名8件
- ▼東京都：青木良一、朝日新聞信用組合、朝日トップス（株）社員会、10・3第1期朝日洋上大学40周年記念同窓会代表・四方繁利、朝日チャリティー美術展会場募金、浅田耕治、安達良元、安室礼三、イトウカツトシ、石井さやか、一之瀬香、市吉ゆりか、江川二夫、櫻美会石川医院、岡本文子、押田佐知子、オグラミチコ、加藤幸雄、華園夢乃チャリティーゴルフコンペ、カワグチケイタ、神田尚俊、衣川厚子、熊谷、小池正人、小形登喜子（故人）、小坂美和、小島正治、小林孝志、小森理之、笹嶋恵美子、佐藤秀雄、佐藤潤一、佐藤祐子、朝日新聞社内自販機募金、白石みどり、鈴木雄一、（株）世田谷サービス公社、専修大学附属高校ゴルフ部、東京工科自動車大学校世田谷校テラフェスティバル実行委員会、高木新、高田寧子、竹下寿子、田中喜久子、種山恵也、多摩西部朝日会日野ブロック、田宮貞和、田村一博、小さなかけ橋合唱団、土屋喬雄、出口幸恵、（株）

東京鳩居堂、第14回東京国際スリーデーマーチ会場募金、ニシカワミノル、(社)日本コントラクトブリッジ連盟、日本ゴーシュ・ヨガ道場カルカタ日印協会、早津美穂、福井一彦、ファイザー(株)、福井正行、本浄寺、真崎光晴、町田寛子、松倉克史、(株)まるやま、蓑島千恵、三輪武範、もものはな、森田有美、湯島針灸院、吉村太一、早稲田学園わせがく高校、渡辺伎美、渡辺友美、匿名36件

▼神奈川県：イサオリユウセキ、伊藤長門、m・m、(株)エコプラネット、小川三郎、下野澄子・裕基子、神奈川県教員派遣アメリカ班、川辺和夫、K・S、慶應義塾高校ライブラリークラブ、(有)三和看護婦家政婦紹介所、相州海老名東柏太鼓、高口湧太郎・颯太郎、中田弘子、西野幸英、細谷正ニ・洋子、三島牧夫、三縄みどりチャリティーリサイクル収益金、横浜スカウト倶楽部、渡辺克己、匿名13件

▼山梨県：嶋崎紀代子、匿名

▼長野県：稲垣慎一、宮沢東洋雄

▼静岡県：匿名4件

▼愛知県：青島鍵一、内海紀章、H・S、丘博文、シトロエン天白ショールーム、高橋昭彦、名古屋深雪会小坂郁子、名古屋文理大学短期大学部名栄祭実行委員会バザー収益金、野武二郎、波多野洋平、丸の内吉本、マンデー会・梶田けい子、匿名6件

▼三重県：萩原豊子、盆栽友人趣味の会、水谷鎮至、匿名2件

▼滋賀県：サオリ、匿名2件

▼京都府：石川喜一郎、大隈靖彦、佐藤信子、田中善子、鳥越一朗、森絹枝、山田健一、匿名4件

▼大阪府：ASA岬、朝日新聞大阪中央販売(株)従業員有志一同、第36回朝日民踊大会実行委員会、石脇コミュニティクラブ、岩間真由美、上田孝之、英真学園高校3年6組、O・Z、(社)大阪府宅地建物取引業協会、大阪深雪会、岡田和子、栗原利代子、月輪寺・榎本桑牛、講演会「高次脳機能障害」会場募金箱、「高齢者フォーラム ウィズ・エイジング」会場募金箱、五島伸子、五島澄子、小峯聖子、第4回堺国際ツーデーマーチ参加者募金、常翔学園高校生徒会、人生道場、星翔高校生徒会、セレッソ大阪、高島屋大阪店、谷口やす子、T・E、定年送別会・越智、「懐かしの童謡・唱歌を歌いましょう」入場者募金、日本生命労働組合北大阪支部、福山章紀、藤田一、堀昭一、水谷泰子、木金館木工いろは塾、モモ・マリン・ハッピー・マロン、山城雅之、山本勝治、山本哲夫、山路均、匿名16件

▼兵庫県：A・H、K・S、見持照子、柴田寛、真生園有志、灘NK、廣辻逸郎、匿名14件

▼奈良県：川畑宗一、木村佐喜夫、五島一雄、野村進、日根文男、匿名

▼和歌山県：和歌山近鉄百貨店・手づくり百軒横町、匿名2件

▼岡山県：岡山市南地区婦人V・B親睦会

▼広島県：東三千年、中村耕也、古本和枝、匿名3件

▼山口県：原田巖・初称

▼香川県：匿名

▼愛媛県：ASA小松・杉森寛

- ▼福岡県：井上継郎、(株)井上商会、貫しろはと町内会、(株)朝日カルチャーセンター、カラオケ大正琴藤由会、金子雅也、ギャラリーそめきち、(医)恵祐会、県高等学校芸術・文化連盟北九州支部茶道部会、(社)茶道裏千家淡交会北九州支部、高砂熱学工業(株)九州支店、成重博美、西鉄ロードサービス退職者の会、西日本カラオケ連合、日刊スポーツ新聞社西部本社、(社)日本モーターボート選手会福岡支部、福岡吹奏楽連盟、藤巻隆男、第43回プラスフェスティバルインニューイヤー募金箱、溝口義晴、室田光児・百合子、メタルアート創造の森、匿名2件
- ▼熊本県：匿名
- ▼宮崎県：O・Z

【ふれあい募金】

- ▼北海道：斧泰彦、角田義一郎、桜井智康、寺田恭一、匿名4件
- ▼宮城県：蚊の涙二世志願者、日野洋子
- ▼青森県：寺沢哲郎、田中誠治、匿名
- ▼秋田県：(有)ASA大館中央代表取締役・斉藤信幸
- ▼山形県：酒井次生、匿名
- ▼福島県：阿部勇、星熊雄、匿名
- ▼茨城県：石川輝雄、(株)池田新聞舗、酒井弥寿子、(有)佐藤新聞舗、佐藤任司、寺田達、樅山診療所、匿名
- ▼栃木県：石川輝雄、(株)関東朝日広告社、(有)木村新聞店代表取締役木村功記、滝童内のり子、手塚正志、福田仁
- ▼群馬県：ASA前橋西部、大沢誠、(株)関東朝日広告社群馬支店、静雅彦、新橋常良、田中嘉親、(有)矢作新聞舗
- ▼埼玉県：ASA狭山市北部所長・木山雄一、朝日新聞籠原販売(株)、ASA宮代、(有)朝日総合販売取締役社長・岩田豊司郎、石川全代、猪俣俊晴、金子千侍、久保田徳子、小林佐千雄、小林正登、島田クリニック、東海林英二、(株)伸光堂西部販売代表取締役・三浦宏、大東外科医院、田代稔、田林晃、(有)堂下新聞舗代表取締役・堂下亨、とくじょう舗、中島竹二、名越啓史、(株)フルカワ、古谷信雄、本郷敦、宮本正、村岡美佐男、緑川豪男、蕨ライオンズクラブ・戸田ライオンズクラブ2クラブ合同例会、山田渚、山根克己、山本久二男、渡瀬英夫、渡辺茂樹、匿名9件
- ▼千葉県：ASA浦安ヒラタ、ASA浦安北部・ASA行徳南部、ASA野田北部、天野高男、荒木忠直、池田守、石井従道、石川三朗、石原正太郎、岩間正雄、土田まち子、大坂一満、天野昌紀、小川裕、梶本伸一、梶原敬、加藤昌義、唐木田卓司、川島正治、喜多義雄、桑折勇一、齊藤充弘、佐藤道雄、柴田眞樹、白濱雄三、高市好人、田口久雄、「小さな親切」運動ちばぎん支部、豊田明、永野昭徳、中村謙介、根本医院、林常蔵、藤井富一、

古川医院・古川喜一郎、三枝清純、武藤弘、望月照正、森下昇、匿名 8 件

▼東京都：ASA下北沢・ASA深沢、ASA深大寺、ASA武蔵五日市所長・高沢文子、ASA原宿所長・菩提寺尚兼、ASA白金所長・本橋常彦、ASA染地、ASA調布、朝日トップス（株）社員会、朝日新聞社販売局、浅野明子、浅見薫子、足立嘉子、天野重夫、荒田茂夫、有山序子、有田孝久、飯田孝一、五十嵐篤男、石橋英太郎、石村孝子・希與子、伊藤斉、稲生綱政、猪忠彦、宇井あきらとレ・ザマン・ド・ラ・シャンソンチャリティコンサート、植田八重子、薄井敏夫、内山鶴雄、上野学園、宇野昭二、宇野勝己、海老沢俊彦、大房順雄、大川清、大澤金政、大多和彦一、大村俊雄、岡容子、小笠原将典子、岡野喜久子、押田佐知子、小田原耕三、小田隆裕、小野恵夫、加藤幸雄、角田邦明、鎌田昭次、嶋原由美子、香川杏二、鐮木進、金子眞也、鎌田直子、亀井正雄、北村満子、（財）杵勝会、木野村幸彦、木下京子、木下喜太郎、QAD会、久保田龍二、蔵方宏昌、栗原娑哉、黒田正純、黒須誠、小池祥雅、江東観光（株）、国府田七郎、小倉真寿雄、小暮堅三、小島正治、小島靖、近藤和恵、光藤政雄、彩季会、雑喉潤、斎藤益三、酒井寛、佐々英一、佐々木胤郎、佐藤静夫、佐藤文雄、鮫島忠夫、三角偉友、質屋21協同組合、実践家政科会福祉部、柴田琇一、島井新一郎、清水太一、清水五百子、清水歯科医院、清水満、白井貞子、新日本石油労働組合・同組合本社支部・同組合東京支部、鈴木弘、仙頭邦子、大東昇、高橋勤、高橋文夫、竹内實昭、竹内一夫、橘ダンススクール、多比良勉、田中、田辺眼科、谷本英次、田宮貞和、田村清明、月本伸子、椿弥一、寺田真文、都立第四商業高校、高岡信男、高橋由紀、武井桂子、富村憲一、永吉安正、中川隆生、中村邦彦、中村義則、中村斐子、奈良昌一、西村理、日本楽器フェア協会、NEWYEARチャリティコンサート2010、（株）西新宿新聞サービスセンター代表取締役・家光茂、沼沢良樹、野本登、橋倉一徳、浜田隆、平川恒久、広瀬隆之・素子・夏希、日上操、深田馨子、福井正行、福井一彦、福原正三、藤田千尋、平和映像メディア研究所所長・四方繁利、星野富栄、中沢昌子、松本章一、松浦武夫、松田三樹雄、水野園、水上篤、見市元、宮内繁、村井丕子、米良哲、毛利康夫、望月紘一、森昌二、諸寿子、山崎英明、山下秀光、山村伸一郎、山本晴美、山脇学園、横山憲子、吉橋市太郎、吉沢忠一、渡部通英、渡部泰久、渡邊隆子、（医）緑雲会理事長・持田政彦、匿名 48 件

▼神奈川県：ASA上大岡社員一同、ASA大船西部、ASA田園田奈、赤坂好章、ASA上大岡社員一同、浅場馨、安部弘二、有馬病院、家本誠一、池田昌二、磯野喜美子、岩崎勇一、岩田裕吉、内山哲哉、梅崎豊、（株）エイワ（日刊スポーツ新聞社を通じて）、（株）エコプラネット、m・m、大井信一、大堀末雄、岡野功、岡村雅生、沖研三、奥村莊哉、小沢直幸、小澤初江、尾崎昭雄、小沢太郎、春日廣之助、神奈川県少林寺武道競技連盟、（有）金田新聞舗、亀田芳子、川辺和夫、瓦田信彦、木村成一、桑原季六、喜久村繁、北村幸雄、栗山俊輔、小杉弘、小林清吉、小林朝貴、小宮末雄、小針和昇、（有）三和看護婦家政婦紹介所、新川雅子、桜井祐二、佐藤光秀、宍戸信子、柴田享、清水夏江、（有）志村商事代表取締役・志村喬、湘南新聞販売（株）代表取締役・武田淳一、代田

治彦、鈴木孝行、たまなわ新聞、瀧末弘規、手島温子、戸田繁雄、中野正則、中尾英一、中島善範、中野正則、西野幸英、野村英明、細谷正二・洋子、萩原精二郎、浜田正治、菱沼保幸、平田キヨ、松本隆美、松下宏子、松田久美子、ミキプルーン・剣持正子、ミキプルーン剣持グループ有志一同、三島牧夫、三由賢二、山下潤、八十田敏男、吉田美枝、レッドゾーン（有）、渡辺克己、匿名 2 2 件

▼新潟県：丹羽正之、匿名 4 件

▼富山県：匿名

▼石川県：匿名

▼福井県：江波肇

▼山梨県：矢沢幹夫

▼長野県：小坂健介、笠原忠夫、塚田修、洞澤茂、松尾克己、宮沢東洋雄、望月正子、師岡恒司、匿名 2 件

▼岐阜県：岩佐清、亀山和春、小林正典、臼井治郎、田ノ井久子、長谷川弘、水口和子、吉田伸子、匿名 3 件

▼静岡県：宇野明彦、稀代幸雄、佐野勉、篠原利男、（財）静岡県高等学校野球連盟、鈴木恒夫、（有）多々良新聞店取締役・多々良幸子、富山文男、船越澄枝、星野光正、吉川正宏、渡辺幸一郎、匿名

▼愛知県：ASA菱野団地所長・黒澤昭二、ASA高浜、安藤政男、池田信之、伊藤健、伊藤弘一、伊藤隆之、上村亨、大鹿不二男、大鹿英子、奥田邦子、尾関博、小野木亨、尾野忠雄、貝谷久宣、加藤肇、加藤文男、蟹江大作、上條俊之、春日井正、兼松栄子、神谷一嘉、河合甲子、久保忠正、小久保茂樹、小林昌雄、近藤誠子、斎藤洋子、坂井数富、佐野三郎、斎木清治、末松学史、杉本宗孝、高橋昭彦、高須梅代、竹中辰夫、照井通夫、中江良子、中山チヨ子、中生加康夫、長坂智子、名古屋ABCダンスの会、名古屋美術商協同組合、丹羽正子、西村光明、西田武夫、野田一三、早川常彦、原田守康、平塚久男、松川静雄、松野辰弥、三浦豊、三木眞嗣、横井敦子、ローソン平針西店従業員一同、匿名 2 2 件

▼三重県：魚佐、坂井邦子、津豊ヶ岡キリスト教会、萩原豊子、水谷鎮至、匿名 2 件

▼滋賀県：ASA近江八幡、植村良雄、小西眞、田沼進、辻寅建設、匿名 3 件

▼京都府：ASA伏見西、浅田照夫、石井範洋、石川喜一郎、石川喜美子、小牧貫治、聖母学院中学高等学校生徒会執行部、瀧本百合子、長谷川きくゑ、畑一、浜田綾子、森下ヒサ子、山田健一、匿名 5 件

▼大阪府：ASA箕面、朝日新聞河南販売（株）、朝日新聞南大阪販売（株）、尼崎久栄、荒川房江、荒元忠彦、天津裕、石崎勝義、石塚達、井原邦夫、岩間真由美、上田和郎、江口利子、大川哲次、大阪市信用金庫、大阪キリスト教短期大学附属聖愛幼稚園、大阪市立光陽特別支援学校高等部、岡崎弘一、樫井義之、樫本智照・月輪寺、川人泰、北新地社交料飲協会、京セラコミュニケーションシステム（株）大阪事業所、切通良昭、近鉄タクシー（株）・近鉄タクシー労働組合、近鉄百貨店阿倍野店、グレース幼稚園、桑田敬信、

桑田洋太郎、小清水英二、小寺太平、小林博、佐藤勉、佐々木綾子、(株)サンディ、島田照子、清水勇、J・W、下出喜久子、新日本石油労働組合関西支部、人生道場、菅野正夫、杉田勝洋、太佐光弘、大丸心斎橋店、高橋徹、高橋京子、田口鐵男、多湖校、橘長胤、辻外科リハビリテーション病院、辻野美治、津本清次、百目鬼主計、戸室常一、中島チエ子、中島正幸、中尾菊子、永田勇、西田卯一、日曜画家協会、能楽協会大阪支部、野下之男、長谷川和平、橋本文夫、阪神タイガースOB会、平佐国武、平塚久男、福山章紀、福田治男、伏谷魁、細田泰嗣、細川福義、前田龍夫、増田武司、松井繁、松原美佐男、三浦茂子、水谷泰子、水野診療所患者・職員一同、民族芸能アンサンブル若駒、森本健蔵、八木黎子、安井一雄、安岡邦昭、山田吉男、大和梱包、山本哲夫、渡辺勝彦、和田信矢、渡辺良子、匿名34件

▼兵庫県：逸見務、伊藤通、井上壽子、上野弘子、O・E、落合弘・弥生、神澤正三、甘露寺、K・S、小西孝彦、小山静男、坂元紀子、真生園有志、鈴木茂、田中誠一郎、瀧谷泰博、土井由一、中江義雄、新妻義輔、福田田鶴子、佛立寺婦人会、古川清、松根哲也、道又央、山下元公、和田産婦人科医院、渡辺啓四郎、匿名15件

▼奈良県：表千家青嵐会、石崎直司、大西利明、川畑宗一、木村佐喜夫、岸田米夫、酒井基雄、浄土宗崇徳寺安井良道住職と檀信徒有志、高谷通顕、谷義郎、西川勝、野村進、宮崎新嗣、三好通玄、八木一夫、匿名6件

▼和歌山県：沖靖雄、竹中信夫、野口稔、萩原義種、光定内科・待合室一同、光定和男、匿名4件

▼岡山県：青木耕治、上杉富美江、匿名

▼広島県：ASA加計、石井美智子、柿本正廣、栗田康雄、山田豊司、村上益夫

▼鳥取県：矢谷啓、匿名

▼山口県：赤川悦夫、秋田香栄子、伊藤経亮、伊藤光夫、稲川芳雄、井上等、井本芳宣、岩国中央病院、上田通、牛尾博昭、潮浩、宇野義昭、大西徹、岡基子、岡碯博友、織田哲至、片岡逸、神徳翁甫、亀山和春、河上勲、河上和洋、河口俊子、木村巖、蔵重典明、河本眞龍、清水勇雄、浄土眞宗明林寺、白水玄勇、隅田茂生、高松恵美子、高山晋洋、武居稔博、竹内清海、津次悠紀子、徳山小学校ボランティア委員会、徳山総合支援学校、中原礼美子、並川宏、早田武、原正昭、日置農業高校生徒会、広重清子、深本良一、福本吾一、福山道義、藤本裙子、藤沢ハヤ子、堀田尚、松岡典子、松崎浩司、光内美恵子、宮川祥一、宮本武、宮本甫子、門山尚貴、山岡邦雄、山根喜美、湯田自動車学校生徒職員一同、吉広嘉市、吉見ラジオ体操おはよう会、米田栄穂、和田鵬亮、匿名21件

▼香川県：ASA三豊北、寺島直子、匿名

▼愛媛県：合田治二、木田洋、砥部焼陶芸館

▼徳島県：小畑光正、上甲哲史

▼福岡県：朝日メディアテック(株)、赤司光生、阿川琢磨、秋吉省一郎、秋枝蕭子、秋成府左治、ASA井尻、ASA南行橋、朝日新聞印刷部OB忘年会、浅原進午、浅海一隼、油絵屋大哲、阿部志朗、安部秀範、安部忠吉、荒川浩二、有吉通泰、有田雅子、有馬律生、安西アイ、安西義孝、安藤倫子、飯田守人、飯田隆之、飯塚聖母幼稚園、行武邦彦、池島

信二、池田加寿子、池野美都子、石田明男、磯矢昭三・洋子、一森軍生、(株)田舎暮らし、稲永清泰、井上敦子、井上継郎、(株)井上商会、井上静子、井上辰彦、井上朝生、今井眞澄、今田正博、今田知子、今林昭、井本武彦、岩崎健治、岩田光雄、岩渕邦夫、上田シズエ、植田朋子、上野俊彦・京子、上野敏彦、上野芳範、植村暎爾、鶴木克己、臼杵隆、内田満寿、内山健治、梅谷敬哲、占部久、浦橋正男、江島幸子、扇谷範可、大久保主税、大田絹枝、太田一三、大塚保人、大西純一、大西克己、大野清、大原幸彦、大林るり子、大村公人、岡田良一、尾上利高、沖永喜代太、奥野豊、奥平成男・みくと、小原秀俊、香川医院、加未勉、笠富久夫、加治久昭、梶谷忠夫、加治屋三郎、梶山晋、柏木昭二、加藤隆、金子隆彦、鴨川隆彦、苅田ロータリークラブ一同、川関富美子、河内山寛、河村寅明、北島裕泰、城戸傳、木村俊夫、木村賢示、木村幸隆、九州国際テニスクラブ、久志本日出子、工藤五六、久野達明、久保一博、久保敏正、熊谷新、熊野ちよ、倉竹一知、蔵本一郎、倉本和美、倉本恵美子、藏永知彦、栗原公足、栗山太、黒田哲玄、黒谷次郎一、桑名純恵、桑原俊治・しのぶ、桑原純、小石純也・真理子、河野直重、古賀哲二、古賀信次、小熊坂公千、小倉教会ハッピー会、小倉イルミネーション実行委員会大乾杯大会、小倉南社会保険委員会京築支部、国際ソロプチミスター北九州一東、児玉正子、小嶋房江、小住和徳、小宮俊秀、きとう胃腸科内科クリニック、金光教若松教会、佐々木愛子、佐々木清、佐田正武、佐藤武美、里村知宣、佐野武・百合子、佐保肇、塩塚春生、實藤正利・さかゑ、芝尾伸子、柴田広実、柴田慎子、渋江有恒、白石逸郎、白石徹、城後滋、進貞人、末吉楠雄、鈴木文郎、宗田利明、副島恒彦、園田正信、田尾美智代、高嶋康年、多川洋子、高村広、竹内サキ子、田島栄次、田中強、田中時雄、谷口幸子、谷崎眞行、田沼美雄、田端一敏、田畑親、段野晝雄、丹下重則、辻吉彦、土倉外科胃腸科医院、恒富誠・みずほ、(株)坪井商店、鶴島光生、手嶋秀子、天満紀子、土居麗子、常盤薬品(株)北九州支店社員一同、戸田三七生、富岡春子、畠田一、友井滋、豊田秀子、豊田茂行、取違芳弘、中尾研輔、長崎、中原肇哉、中村洋子、中牟田恭子、中荘俊、中村治雄・千鶴子、中村寿、竹中久、波止君美、並波真、成重まり子、成重喜徳、難波響子、西明義晃、西生寺護持会、西園昌久、根城堅、野上智宏、野口貢、野口正路、長治良知、畑邊正治、畠中保實、原トモ子、原芳信、原陽一、原三信病院、原田ヨシ子、日朝高晴、樋口佐和子、樋口照彦、日高義之、日高孝枝、日高寛、日高毅、日比生隼斗、姫路秀明、三木宏、平井信広、平尾武、平田淑子、平田澄穂、平田利栄、平野敏弘、ヒロ・ヘレナフラスタジオ萩ヶ丘教室受講生一同、福嶋一雄、福島新生、福田礼子、福田宏行、福原恒明、福吉新、藤井百合藏、藤尾且一郎、藤崎良之、藤崎良人、藤巻義範、藤好三千代、藤見是、婦人学級きりがおか、淵上鯉一、古庄三喜男、法泉寺、保永惇治、堀益一、前田紀道、前田奉一郎、前田稔、真島敬一郎、松本久、松本弘、松本富士夫、松井昭子、松木俊正、松下徹、松下美智恵、松原建彦、魅モード1、三浦康明、三浦豊、三小田功、永田諫也、水ノ江正、溝口義晴、溝部忠増、光井幾藏、光安一造、光安如成、水上平吉、宮崎冬樹、宮田英、宮田和幸、宮本邦生、宮島なずな・すずな、向笠洋三、村上啓子、村上葉子・靖子、村上歯科医院、明治学園小学校

児童会、雌熊二三雄、目原清嗣、森真由美、森脇巖、安村茂男、家成康紀、矢野雄、山岡光孝・芳恵、山家内科医院、山下新一郎、山下幸子、山下春子、山本哲夫、山本英雄、山本重美、雪竹清弘、横田チヨ子、吉田和明、吉永淑子、吉永正人、米倉昭史、渡辺一敏、渡邊優希野・優芽野、匿名55件

- ▼佐賀県：石井倫平、市丸晴子、口石將博、執行明、杉原茂樹、豊田俊明、成富辰次郎、長谷川敏子、匿名2件
- ▼長崎県：後田敏子、川口幸義、黒崎勇、里崎裕康、高岡願生、高野星次、光武富士哉、牟田義人、百田眞瑛彦、匿名3件
- ▼熊本県：坂田サチ子、志方栄吉、鈴木一臣、竹中研治、樽海友希、中村修、野崎隆、藤田英介、永野昌安、宮崎邦介、宮田和子、本村久子、森本政幸、山部会竜山内科リハビリテーション病院、匿名7件
- ▼大分県：ASA犬飼、ASA豊後高田販売店、朝日新聞日田販売（株）、阿孫久見、石崎晃一郎、岩崎修二、河野なみ子、神戸信之、棕園ミヨ子、佐々木伸子、佐藤トシ子、野上和恵、野津川登・広田久子、原嘉徳、本田和子、宮本隆偉、八坂シヅ、矢永英子、柳瀬陽之助、山崎福男、山本宏子、吉松忠徳、匿名8件
- ▼宮崎県：井上公宏、赤池義昭、O・Z、健風会榎内科病院、塚田嘉也、十善会県南病院、中山民男、前田昭久、匿名3件
- ▼鹿児島県：阿久根亨、雨宮仁、出水郡医師会立阿久根市民病院、鹿児島大学医学部・歯学部附属病院、木村龍一郎・理、桐明桂一郎、健生会本庄病院、田原睦郎、藤山清郷、匿名5件

朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオのご案内

◆朝日福祉ガイドDVD◆

『自閉症の子どもの評価 全4巻』

セット価格 18,000円

各巻 4,800円

自閉症の人たちを正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、わかりやすく映像化しました。第1巻「評価の仕方」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。

『自閉症の子どもの自立課題 全3巻』

セット価格 13,500円

各巻 4,800円

「自分ができるんだ」という感覚を養い、いろいろなことに取り組もうという意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しくやさしく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題の作り方」(49分)。

『青年期・成人期のTEACCHプログラム』

3,000円(56分)

学校卒業後の就職や居住、余暇の過ごし方など、青年期・成人期の自閉症の人たちへのTEACCHによる援助プログラムを紹介。

『自閉症児の明日のために』

—TEACCHのねらいと考え方—

3,000円(49分)

TEACCHプログラムの全体像をセラピストの立場から紹介。日本の自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆。

『親のためのTEACCHプログラム』

3,000円(68分)

TEACCHプログラムの家庭での援助の実際を具体的に紹介。親の立場で実践できるようにわかりやすくまとめました。

『教師のためのTEACCHプログラム』

3,000円(67分)

教室やスケジュールの設定、親との連携など、学校や施設・作業所などで自閉症の人たちに関わる教師や指導員の参考に。

◆朝日福祉ガイドビデオ◆

『自閉症の治療教育』

3,000円(60分)

全米自閉症児親の会の様子や米国ノースカロライナ州の自閉症の療育への取り組みを紹介。

『TEACCH』

3,000円(90分)

TEACCH部で行われている一週間にわたる教師のための訓練セミナーの様子を詳しく紹介。

『ダウン症児のための赤ちゃん体操』

4巻セット 15,000円(各30分)

ダウン症の赤ちゃんの発育に合わせて楽しい音楽で行う体操。生後2カ月から2歳くらいまでの赤ちゃんに。

◆朝日福祉ガイドブック◆

『精神障害者のホームヘルプサービス』	精神障害を正しく理解し、当事者の立場にたった支援ができるよう、関係者の体験談や豊富な事例でわかりやすく解説しています。
800 円	
『自閉症の人たちを支援するということ』	TEACCHプログラムの最高責任者ゲーリー・メジボフ教授が自閉症の障害と同プログラムの内容についてわかりやすく解説しています。
800 円	
『自閉症のひとたちへの援助システム』	TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、このプログラムを日本でいかに生かすかを提案しています。
500 円	
『きみといっしょに』	全国のLD児を持つ親たちが、LD児への理解やよりよい付き合い方をまとめた手引。Q&Aと推薦する相談・診断機関などを掲載しました。
500 円	
『くるまいす-第3改訂版』	車いすの種類や構造、基礎的な介助方法や介助のポイントをわかりやすく解説。公共交通機関の利用についてもふれています。
300 円	
『新・川崎病がわかる本改訂増補版』	乳幼児を中心に発病する原因不明の“川崎病”について症状・特色・療養上の注意・相談窓口など最新の情報を加えて解説しています。
500 円	
『小児ぜんそくは治る』	小児ぜんそくを正しく理解し、どのように予防し、治していくかを最も新しい知見を折り込みながらわかりやすく解説しています。
500 円	

◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かFAX、電子メールで下記までお申し込みください。

(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記)

HP (<http://www.asahi-welfare.or.jp/>) からもお申し込みができます。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオ係

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2 郵便振替 00130-1-9166

tel : 03-5540-7446 fax : 03-5565-1643

朝日福祉ガイドDVDシリーズ

「親と教師のための 自閉症の子どもの評価」全4巻 頒布中

DVDシリーズ「親と教師のための 自閉症の子どもの評価」（全4巻、写真）の頒布を2008年度から行っています。「親と教師のための 自閉症の子どもの自立課題」（全3巻）に続くシリーズです。自閉症の人たちを支援するうえで、すべての基礎となる評価について、実際に自閉症のお子さんやご家族の協力をいただきながら、撮影・制作されました。文字情報では、なかなか伝えにくい内容を、詳しく具体的に映像化しています。



「評価のしかた」、「評価のポイント」、「評価と課題設定」、「自立のための評価」と、第1巻から分かりやすい構成で、画面を見ながら一緒に子どもの評価ができるように工夫されています。

監修は前シリーズと同様に、米国・ノースカロライナ大学医学部TEACCH部部長のゲーリー・メジボフさん。また、監修・指導に大妻女子大学教授の内山登紀夫さん、横浜市東部地域療育センター通園部園長の幸田栄さん、同センター臨床心理士の安倍陽子さん、よこはま発達クリニック児童精神科医の村松陽子さん、京都市発達障害者支援センター副センター長の中山清司さんの5人（肩書きはいずれも制作当時）。朝日新聞厚生文化事業団は、このDVDの企画・立案と制作への協力を行いました。

「自閉症の子どもの評価」（全4巻）は、セット頒布1万8000円（送料別）。

なお、前作の「自立課題」も、親や教師などから「具体的で分かりやすい」と評価の高いシリーズです。これまでに約2000セットの申し込みがあり、その後も引き続き頒布の申し込みが絶えません。「自閉症の子どもの評価」と合わせて、家庭や学校などの現場で、お役立てください。

里親家庭で生活する「子どもの権利ノート」のご案内

日本全国の里親家庭には、様々な理由で実の親と暮らすことができない約3600人の子ども（厚生労働省の2007年度調査）がいます。こうした子どもたちに豊かな生活を送ってもらうために、「子どもの権利ノート」（朝日新聞厚生文化事業団編集・発行、写真）を2008年10月に作成し、全国里親会を通じて頒布しました。

作成にあたっては、青山学院大学教授の庄司順一さんを委員長に、里親家庭で育った若者や弁護士、里親、東京都児童相談センター所長、ソーシャルワーカーらによる作成委員会を結成しました。

里親と生活する子どもたちの多くは、気持ちを表現して周囲に働きかける、人を信じて支え合うといった力を奪われた経験を持っています。こうした力はすべての人

に大切なものであり、まさに権利や人権と言えるでしょう。里親家庭の子どもが豊かに生きるためには、これらを子どものうちに取り戻さなければなりません。そのためには、安心できる環境の中で、その力が子どもにあること、だれにも奪われてはいけないこと、安心して使っていていいことを繰り返し伝えることが欠かせません。「子どもの権利ノート」は、そのツールとして里親家庭で使っていただくためのものです。子どもと里親が読みやすいようにイラストを多く入れ、一緒に考えながら書き込めるページなども盛り込みました。

また、里親を対象にしたガイドブックも作りました。里親制度は子どもの権利を大切にするための公的な仕組みが十分ではなく、多くの里親は悩みや苦勞を抱えていると言われます。ガイドブックは養育上の困難などを子どもの権利擁護の視点から解説し、日々、役立てていただくのが目的です。

施設で暮らす子どものための権利ノートは従来からありましたが、里親家庭の子ども向けは神奈川県、大阪府、沖縄県などでしか作られていませんでした。この「子どもの権利ノート」がきっかけとなり、多くの自治体などで権利ノートや子どもの権利擁護の仕組みが作られることも目指しています。

発行以来、子どもを預かっている里親以外にも、里親になりたいという人から政治関係者まで、様々な立場の方から、多数の送付申し込みがありました。「権利ノートを作る参考にしたい」（地方自治体、大学教員）、「里親家庭で生活することになる子どもに渡したい」「里親希望者への研修の教材にした」（ともに地方自治体、児童相談所）、「授業で使いたい」（高校教師、大学教員ほか）などの声が寄せられ、この「子どもの権利ノート」とその趣旨が広まることを期待できるものが多くありました。



- ・「知ってほしいあなたのこと～子どもの権利ノート～」（幼児・小学生用と中学・高校生用の2種類）
 - ・「子どもの権利ノート ガイドブック～子どもと里親養育の未来のために～」(委託里親用)
- いずれもA5判サイズの小冊子で、無料です。発行部数は合計3万部。残部があります。

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

人間尊重の原点に立って

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは、1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食糧、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金をはじめ、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食糧や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診療券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立、保健・育児など多岐にわたる活動はわが国の保健師制度の基礎を築きました。

第2次大戦後は、戦災者や引揚者への家庭常備薬や衣料品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃虚の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らすお年寄りの温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長とともに事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重高原の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害児が参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害学生の奨学金

制度も創設しました。

障害者や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開しました。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ねる「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。「ヨーロッパの旅」は障害者の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害者自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（86年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、寝たきりや認知症の高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始しました。同時に学習障害児（LD）の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は84年にスタート、「手話の甲子園大会」として定着しています。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどの障害者に車いすを贈る運動を展開、現地の障害者が車いすを製作・修理する工場を開設しました。

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。

未曾有（みぞう）の大災害となった95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害者への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など、多岐にわたって活動しました。この実績は、2004年の新潟県中越地震でも生かされ、被災者の心のケアをはかる独自事業を展開しました。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、全国的な活動に力を注いでいます。

08年には創設80年を迎え、記念事業として「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」「養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」をスタートさせました。09年度からは「子ども」「障害者」「高齢者」を事業の3本柱とする基本方針のもと、活動を進めています。今後とも、これまでの実績を生かし、人間尊重の原点に立って、「共に生きる豊かな福祉社会」の実現をめざし、先駆的な事業に取り組んでまいります。

2009年度 収支計算書

(2009年4月1日～2010年3月31日)

単位：円

事業活動収入	324,173,788	事業活動支出	437,226,151
事業収入	172,201,231	事業支出	194,982,315
児童福祉事業	7,743,387	児童福祉事業	68,057,028
障害者福祉事業	16,174,000	障害者福祉事業	30,598,777
高齢者福祉事業	597,000	高齢者福祉事業	6,725,995
西部福祉助成金	0	西部福祉助成金	4,636,880
チャリティー事業	136,013,131	チャリティー事業	78,390,756
医療と公衆衛生	3,560,573	医療と公衆衛生	452,091
福祉啓発推進	117,500	福祉啓発推進	954,735
朝日福祉ガイド(DVD 他)	7,995,640	朝日福祉ガイド(DVD 他)	5,166,053
寄付金収入	138,571,110		
引当金戻入	12,896,500	引当金繰入	21,115,040
雑収入	504,947	人件費	177,527,288
		事務費	42,837,277
		減価償却費	764,231
事業活動外・特別収入	13,268,604	事業活動外・特別支出	0
財産収入	13,268,604		
		当期活動収支差額	-99,783,759
合計	337,442,392	合計	337,442,392

理事・監事・評議員名簿

2010年4月1日現在

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員

(理事 6人 監事 2人 評議員 13人) 敬称略・順不同

理事長	両角 晃一	朝日新聞社役員待遇・広報・環境担当
常務理事	関戸 衛	朝日新聞厚生文化事業団常務理事
理事	佐々木正美	川崎医療福祉大学特任教授
同	高井 正憲	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	窪田 悦郎	社会福祉法人こどもの国協会常務理事・園長
同	山田 雄一	朝日新聞厚生文化事業団事務局長
監事	関岡 武次	元東京都福祉局長
同	福井 正行	朝日新聞信用組合理事長
評議員	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長・元環境事務次官
同	佐々木正美	川崎医療福祉大学特任教授
同	山田 昭義	社会福祉法人A J U自立の家専務理事
同	野村 寛	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	高井 正憲	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	窪田 悦郎	社会福祉法人こどもの国協会常務理事・園長
同	森田 秀男	財団法人ベルマーク教育助成財団常務理事
同	木村 伊量	朝日新聞社ゼネラルマネージャー兼東京本社報道局長
同	町田 智子	朝日新聞社企画事業本部長
同	石井 勤	朝日新聞社経営企画室長
同	両角 晃一	朝日新聞社役員待遇・広報・環境担当
同	関戸 衛	朝日新聞厚生文化事業団常務理事
同	喜田 洋	朝日新聞厚生文化事業団大阪事務所長

お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿

■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643

□郵便振替…口座番号「00130-1-9166」

□銀行振込…三井住友銀行新橋支店 普通「303668」

■大阪事務所

〒530-8211 大阪府大阪市北区中之島3-2-4

TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

■西部事務所

〒803-8586 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-1

TEL093(563)1284 FAX093(563)1287

■名古屋事務所

〒460-8488 愛知県名古屋市中区栄1-3-3

TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

※ご寄付に際して朝日新聞厚生文化事業団が振込料金を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求下さい。銀行振込の場合は事前にご連絡下さい。

※各地の朝日新聞本社・支社・総局でもお受けします。

※当事業団への寄付金は所得税法・法人税法による寄付金控除が認められております。

朝日新聞厚生文化事業団職員名簿（2010年4月1日現在）

■本部（東京）

事務局長 山田 雄一
次長 島田佳津比古
管理部長 池谷 澄子
事業部長 福田 年之
広報担当部長 谷 啓之
柳沢 佐和子
野崎 貴士
中村 宣人
落合 すが子
保谷 加代子

■大阪事務所

事務所長 喜田 洋
次長 岩切 修次
事業担当部長 中村 茂高
坂東 美喜子
脇 敬子
小倉 玲子

■西部事務所

事務所長 成重 博美
榎並 怜子

■名古屋事務所

事務所長 坂井 数富
東 幸枝

ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2009

平成21年度

事業
報告

ホームページで福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

「2009年度 事業報告」

2009年4月 1日から

2010年3月31日まで

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団